

平成 26 年度
(2014)
事業報告書

社会福祉法人 山輝会
ウェルフェア・グランデ明石
プライム江井ヶ島

平成 26 年度 (2014) 社会福祉法人山輝会事業報告書

ウェルフェア・グランデ明石

- ・ 特別養護老人ホーム部門 (本館) P 1 ~
- ・ 特別養護老人ホーム部門 (アネックス) P 1 1 ~
- ・ 通所介護うらら部門 P 1 3 ~
- ・ 通所介護きらら部門 P 1 5 ~
- ・ 訪問介護部門 P 1 7
- ・ きぬがわ居宅介護支援事業部門 P 1 8
- ・ グループホームプリランテ明石部門 P 1 9 ~
- ・ 総務部事業報告 P 2 0

プライム江井ヶ島

- ・ 特別養護老人ホーム部門 P 2 1 ~
- ・ 短期入所生活介護部門 P 2 6 ~
- ・ 通所介護部門 P 2 8 ~
- ・ データ集 P 3 0 ~

平成26年度事業報告書

報告日	平成27年 4月20日
部門名	生活課
責任者	三谷 彰

収入稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	96.0%	252,983千円
	実績	95.3%	258,882千円
	差異	-0.7%	5,899千円
	達成率	99.3%	102.3%

視点	重点取組課題	目標値	総括																								
財務状況の改善	<p>体調不良を予防して入院者を出さない</p> <p>感染症を発生させない</p> <p>事故が原因での入院を出さない</p>	<p>特養 稼働率 98%</p> <p>入院空床 300床以下/年</p> <p>(資料 I)</p>	<p>【総括】</p> <p>全体稼働率 95.3%</p> <p>【特養】</p> <p>年間稼働率 98.4%</p> <table border="0"> <tr> <td>新規入居者</td> <td>15名</td> <td>退居者数</td> <td>15名 (死亡退居 13名 入院2名)</td> </tr> <tr> <td>空床数</td> <td>310床</td> <td>入院による空床</td> <td>180日 (前年比 - 193日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(前年比 - 153床)</td> <td>退居による空床</td> <td>125日 (前年比 + 42日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>外泊による空床</td> <td>5日 (前年比 - 2日)</td> </tr> <tr> <td>延べ入院者数</td> <td>11名</td> <td>平均入院日数</td> <td>16.3日 (前年比 - 0.7日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(前年比 - 11名)</td> <td>入退居時の平均空床</td> <td>8.3日 (前年比 + 1.9日)</td> </tr> </table> <p>・入退居の多い1年ではあったが、延べ入院者の大幅な削減が稼働率向上に反映された結果となった。長期入院や感染症の発症も無く年間通じて安定した稼働率を維持することが出来た。退居者が続いた際に新規受入れまでの空床期間が長くなる傾向があり、面接計画やSSベッドの活用方法については見直しが必要である。</p> <p>・転倒事故が前年比の約2倍となった。カンファレンスを繰返し、対応策を検討したがご利用者の行動を尊重しながら安全を確保する事の難しさを痛感した1年であった。</p> <p>また、空調改修工事期間に骨折事故が発生した。環境変化に伴うリスクへの配慮が不十分であり、今後の大規模改修時には反省を踏まえ対応をとりたい。</p> <p>・10月～12月にかけて空調設備の改修工事が行われた。冷暖房の効きも良く、フロア毎の集中管理装置が付いたことで効率的に使用できる設備となった。</p>	新規入居者	15名	退居者数	15名 (死亡退居 13名 入院2名)	空床数	310床	入院による空床	180日 (前年比 - 193日)		(前年比 - 153床)	退居による空床	125日 (前年比 + 42日)			外泊による空床	5日 (前年比 - 2日)	延べ入院者数	11名	平均入院日数	16.3日 (前年比 - 0.7日)		(前年比 - 11名)	入退居時の平均空床	8.3日 (前年比 + 1.9日)
	新規入居者	15名	退居者数	15名 (死亡退居 13名 入院2名)																							
空床数	310床	入院による空床	180日 (前年比 - 193日)																								
	(前年比 - 153床)	退居による空床	125日 (前年比 + 42日)																								
		外泊による空床	5日 (前年比 - 2日)																								
延べ入院者数	11名	平均入院日数	16.3日 (前年比 - 0.7日)																								
	(前年比 - 11名)	入退居時の平均空床	8.3日 (前年比 + 1.9日)																								
	SS稼働率を安定させる	<p>SS 稼働率 90%</p> <p>(資料 I)</p>	<p>【短期】</p> <p>年間稼働率 86.5%</p> <table border="0"> <tr> <td>新規利用者</td> <td>43名 (前年比 - 21名)</td> </tr> <tr> <td>リピート率</td> <td>72.1% (前年比 + 0.3%)</td> </tr> </table> <p>・SS担当職員が欠員した状態が続き、日々の複雑な業務に追われた。下半期に入り体調不良やリピーターの長期入院、他施設入所のキャンセルが相次ぎ空床を埋めることができなかった。空調改修工事の影響が無かったとは言えないが、営業面での力不足がはっきりと数字にも表れた。</p> <p>・前年度に引き続き、ケアマネや家族様に喫茶や外出企画、散髪などの行事案内をすることで利用の動機づけになり、定期以外での利用に繋げることができた。また、連絡帳を利用して看護職員から健康状態などをお伝えすることで家族様からも好評を得た。</p> <p>・今年度は利用希望の多くが週末型(金曜日～月曜日)であった。次年度に向けて、平日(火曜日～木曜日)の利用者を獲得する為、営業活動の充実と、設備・サービス面での改善に取り組む。</p>	新規利用者	43名 (前年比 - 21名)	リピート率	72.1% (前年比 + 0.3%)																				
新規利用者	43名 (前年比 - 21名)																										
リピート率	72.1% (前年比 + 0.3%)																										

視 点	重点取組課題	目標値	総 括												
サービス力の強化	ケアの三原則に基づき、お年寄りのこだわりを大切に食事、入浴、排泄ケアを提供する		<ul style="list-style-type: none"> メンバーの入替りもあり、委員会内で勉強会を行い基礎知識の習得や各ケアの考え方について学んだ1年ではあったが、入浴委員会の活動は低迷してしまった。 食事委員会はシーティングの勉強会に参加し、食事姿勢、食べこぼしの改善に取組み、配膳業務についてもビデオ撮影を行い検証する等の積極的な活動を展開した。 また、排泄委員会は年間通じた勉強会の開催、失禁によるフロアの臭い改善に取組んだ。 両委員会ともに1年間で明確な結果には繋がっていないが、次年度も継続して取組むことで更なる改善に繋げたい。 												
サービス力の強化	ご家族の意見、要望を引出し、ニーズに応える	ご家族の面会が増える	<p>【行事企画の家族参加者】</p> <table border="0"> <tr> <td>全体企画</td> <td>延べ 72名</td> <td>【認定調査】</td> <td>家族立会い者数 26名 / 調査総数 36名</td> </tr> <tr> <td>3階フロア企画</td> <td>延べ 48名</td> <td>【面会者】</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4階フロア企画</td> <td>延べ 51名</td> <td>延べ</td> <td>2,041名/年間(面会簿より)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は家族様との親睦を深めるために「茶話会」をフロア毎に開催した。ご利用者を交えない行事企画は初めての試みであったが日頃は聞くことの出来ない貴重なお話を伺うことができ、家族様からも好評を得た。 日頃の面会や、行事企画に参加して下さる家族様は偏りがあるため、施設から足が遠のいている方へのアプローチ方法も検討する必要性を感じた。 個別ニーズへの対応はカンファレンスを行い検討を重ねたが、事故対応の内容が中心となるが多かった。 	全体企画	延べ 72名	【認定調査】	家族立会い者数 26名 / 調査総数 36名	3階フロア企画	延べ 48名	【面会者】		4階フロア企画	延べ 51名	延べ	2,041名/年間(面会簿より)
	全体企画	延べ 72名	【認定調査】	家族立会い者数 26名 / 調査総数 36名											
	3階フロア企画	延べ 48名	【面会者】												
4階フロア企画	延べ 51名	延べ	2,041名/年間(面会簿より)												
マナーの向上を図る		<ul style="list-style-type: none"> 個人毎、フロア毎のマナー目標を設定して改善に取組んだ。大幅な改善には繋がっていないものの、年間通じて取組むことで職員の意識付けとなり、挨拶や入室時のノック、言葉遣いなどの基本姿勢は少しずつ改善されているように感じる。 2月に入居者ご家族様、SS利用者ご家族様を対象に接遇アンケートを実施した。 厳しいご意見は少なかったが、記入頂いた内容が全てと捉えず、謙虚な姿勢で引き続き接遇マナーの向上に取組むことを確認した。 <p>【アンケート回答者】</p> <table border="0"> <tr> <td>入居者ご家族</td> <td>32名</td> <td>SS利用者ご家族</td> <td>16名</td> </tr> </table>	入居者ご家族	32名	SS利用者ご家族	16名									
入居者ご家族	32名	SS利用者ご家族	16名												
迅速、適切な看護判断を行う		<ul style="list-style-type: none"> 専用の書式を用いて入居後の医療情報(受診、疾病の罹患状況や経過)を個人毎に整理している最中であり、今後は情報を活用したリスクの把握や予防的対応に活用する。 職員研修会を開催して、急変時の対応や健康管理上で必要となる日常的な観察ポイントについて看介護職員間で共通認識を深めた。 													
業務の改善	情報共有を図る	情報の伝達、共有がスムーズに行える	<ul style="list-style-type: none"> リーダー会議内で事故発生時の報連相ルート、夜間緊急時の対応について見直しを行った。 各種議事録は相談室前の掲示板を活用して情報提供を行ったが、情報共有としての効果は限定的であり、回覧、コピーの配布など別手段の検討も必要に感じた。 フロア会議の議事録作成者は固定したが、勤務時間内での記録作成時間を確保することは非常に困難であった。個人の能力差だけではなく、人員配置と業務量のバランス調整や、記録時間の確保も必要であり次年度の課題とする。 												
		企画から実施、報告までの時間を短縮する	<ul style="list-style-type: none"> 全体行事企画を中心に、企画会議を開催した。企画立案段階から多職種が協議することで役割分担が明確となり、情報共有もスムーズに行うことができたが、会議不参加者への情報伝達が不十分であった。 立案後も会議を適宜開催することで進捗状況の確認、内容の修正等も検討することができており、次年度も引き続き取組む。 												
	買物代行業務の手間を省く		<ul style="list-style-type: none"> 8月より買物代行業務にイトーヨーカドーのネットスーパーの利用を開始した。(月2回) 従来の方法と比較し、大幅な業務時間の短縮に繋がっている為、次年度以降も利用を継続する。 												
	清掃業務の方法、頻度を見直す		<ul style="list-style-type: none"> 大掃除は5月、12月に実施した。 家事援助マニュアルの見直しを中心に、SS利用者の受入れ、荷物チェック、服薬管理などのマニュアル類も年間通じて見直しを行った。 形としては概ね整備されつつあるため、次年度はマニュアルを活用しながら必要に応じて見直しを行う。 												

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
人材、組織力の強化	中堅職員の育成に取り組む	2名	<ul style="list-style-type: none"> 各フロア1名を決定して、人材育成プログラムを作成した。 初めての取組みであり現状分析や計画のすすめ方など、担当者側(主任、係長)が勉強させられた1年であった。手探りでの実施であり育成プログラムの成果とは言えないまでも、対象職員の成長を感じる事ができた。
	手作りの研修を開催する (資料 II)		<ul style="list-style-type: none"> 研修委員会を中心に年間12回の職員研修会を立案、実施し、内部研修の伝達講習をフロア毎に開催する事で共通認識を深めた。事前準備や研修のすすめ方等、主催者側の学びが多かったが、内容が不十分で参加者側のスキルアップには繋がらないものもあり次年度の課題とした。 また、小グループ研修は前年度に引き続き年間18回の開催となったが、主催者、参加者は限られていた。
	広い視野を持ったスタッフを育てる		<ul style="list-style-type: none"> 課内職員を積極的に外部研修に出し、年間23名が参加した。外部研修伝達講習会を年6回開催して学びを共有した。 フロア間交流研修を2名実施(7月)した。2月にも予定していたが、職員の退職に伴い人員的な余裕がなく実施を見送った。 中途採用職員の研修プログラムを検討したが実施には至っておらず、実施方法等については次年度へ持ち越した。 職員入職時のオリエンテーション資料を作成する過程で、目標や役職者間での介護観、職員育成の方向性を共有することが出来た。

平成26年度 生活課 事業報告(資料 I)

No. 1 ベッド稼働率、コスト管理

【平成26年度 特養(本館)稼働状況】

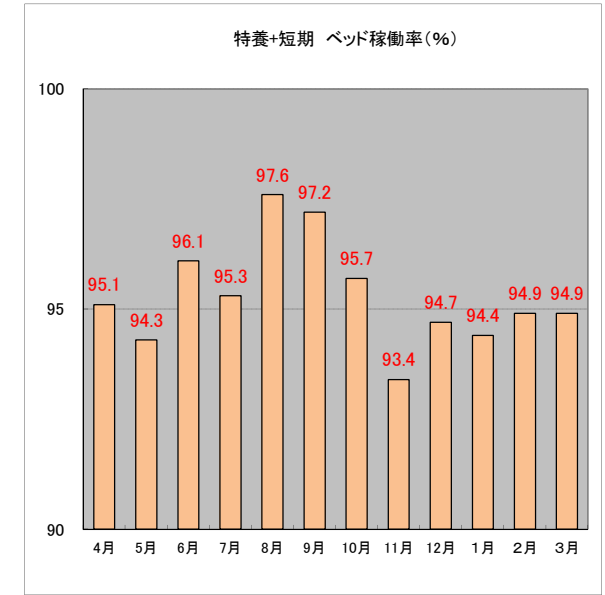
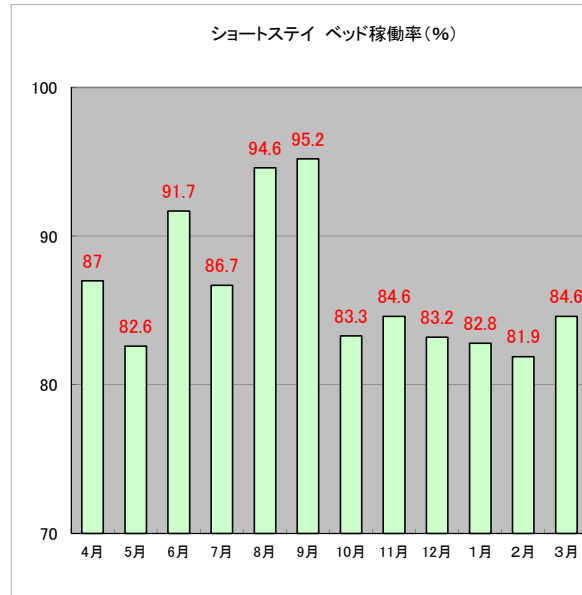
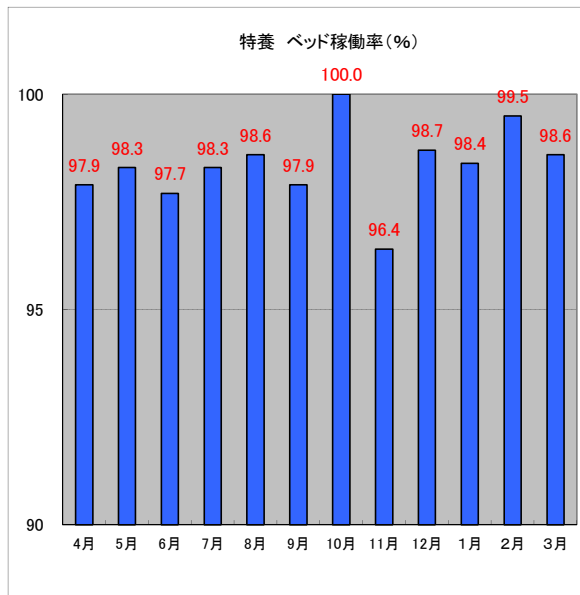
月	本来日数	実日数	稼働率	入居	退居	退居理由	入院日数	外泊日数	空床日数	空き合計
4	1560	1527	97.9%	1	2	死亡	25	0	8	33
5	1612	1585	98.3%	1	1	死亡	16	0	11	27
6	1560	1524	97.7%	2	1	入院	15	0	21	36
7	1612	1585	98.3%	0	0		27	0	0	27
8	1612	1590	98.6%	0	1	死亡	18	2	2	22
9	1560	1528	97.9%	3	2	死亡、長期入院	9	0	23	32
10	1612	1612	100.0%	0	0		0	0	0	0
11	1560	1504	96.4%	3	3	死亡	15	0	41	56
12	1612	1591	98.7%	1	1	死亡	20	0	1	21
1	1612	1587	98.4%	1	1	死亡	22	3	0	25
2	1456	1448	99.5%	1	1	死亡	5	0	3	8
3	1612	1589	98.6%	2	2	死亡	8	0	15	23
合計	18980	18670	98.4%	15	15		180	5	125	310

【平成26年度 短期入所生活介護 ベッド稼働率】

月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	540	470	87.0%
5	558	461	82.6%
6	540	495	91.7%
7	558	484	86.7%
8	558	528	94.6%
9	540	514	95.2%
10	558	465	83.3%
11	540	457	84.6%
12	558	464	83.2%
1	558	462	82.8%
2	504	413	81.9%
3	558	472	84.6%
合計	6570	5685	86.5%

【平成26年度 特養+短期 ベッド稼働率】

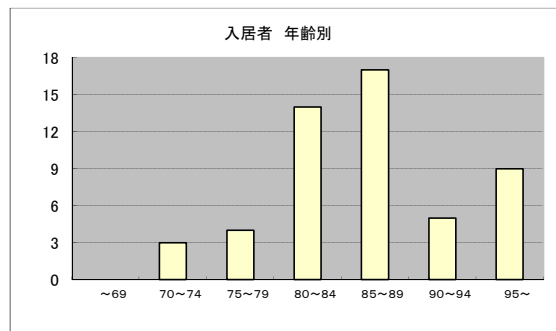
月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	2100	1997	95.1%
5	2170	2046	94.3%
6	2100	2019	96.1%
7	2170	2069	95.3%
8	2170	2118	97.6%
9	2100	2042	97.2%
10	2170	2077	95.7%
11	2100	1961	93.4%
12	2170	2055	94.7%
1	2170	2049	94.4%
2	1960	1861	94.9%
3	2170	2061	95.0%
合計	25550	24355	95.3%



【平成26年3月31日現在 本館入居者 年齢・要介護度一覧】

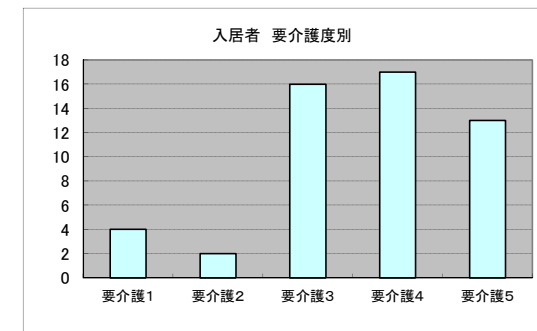
《年齢別》

年齢(歳)	人数(人)	%
～69	0	0.0%
70～74	3	5.8%
75～79	4	7.7%
80～84	14	26.9%
85～89	17	32.7%
90～94	5	9.6%
95～	9	17.3%
合計	52	100.0%
平均年齢 86.3歳(男性 78.0歳 女性 88.1歳)		



《要介護度別》

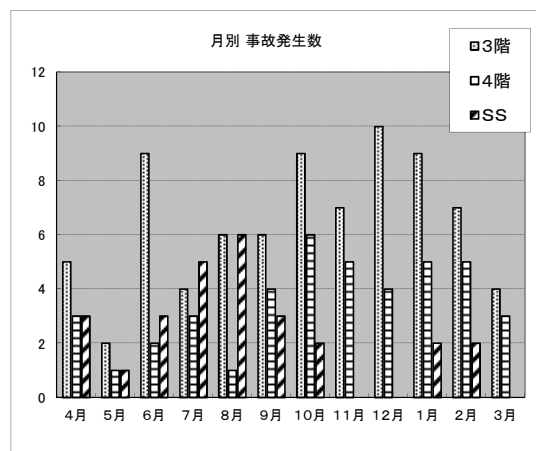
介護度	人数(人)	%
要介護1	4	7.7%
要介護2	2	3.8%
要介護3	16	30.8%
要介護4	17	32.7%
要介護5	13	25.0%
合計	52	100.0%
平均介護度		3.63



No. 2 事故発生数

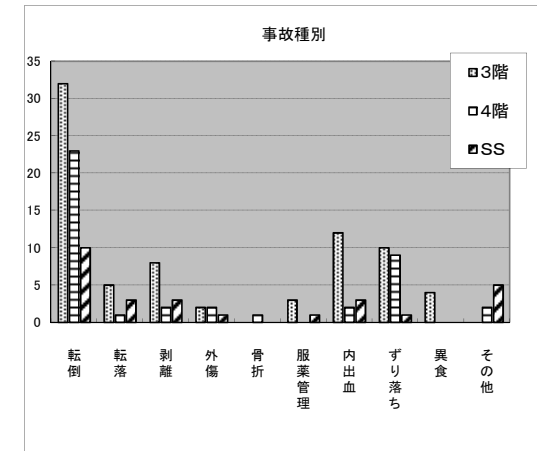
《月別 事故発生数》

月	3階(件)	4階(件)	SS(件)	計(件)
4月	5	3	3	11
5月	2	1	1	4
6月	9	2	3	14
7月	4	3	5	12
8月	6	1	6	13
9月	6	4	3	13
10月	9	6	2	17
11月	7	5	0	12
12月	10	4	0	14
1月	9	5	2	16
2月	7	5	2	14
3月	4	3	0	7
計	78	42	27	147



《事故報告 内訳》

種別	3階	4階	SS	計
転倒	32	23	10	65
転落	5	1	3	9
剥離	8	2	3	13
外傷	2	2	1	5
骨折	0	1	0	1
服薬管理、与薬ミス	3	0	1	4
内出血	12	2	3	17
ずり落ち	10	9	1	20
異食	4	0	0	4
その他(離脱、私物管理等)	2	2	5	9
合計	78	42	27	147



No. 3 行事・企画 実績

《全体企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成26年 9月 21日(日)	敬老会	70名	42名	28名
平成26年 12月 21日(日)	忘年会	69名	30名	4名
平成27年 1月 1～11日	正月行事(正月祝い、書初め、カルタ大会、初詣、鏡開き)	228名	0名	0名

《フロア、SS企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成26年 5月 22日(木)	3階フロア企画「いちご大福作り」	22名	0名	0名
平成26年 6月 29日(日)	3階フロア企画「日帰り外出(須磨離宮公園)」	10名	10名	0名
平成26年 7月 20日(日)	3階フロア企画「茶話会」	0名	14名	0名
平成26年 10月 25日(土)	3階フロア企画「芋きんとん作り」	32名	0名	0名
平成26年 11月 4日(火)	3階フロア企画「戎井みつゑ様 白寿祝い」	11名	0名	0名
平成26年 11月 16日(日)	3階フロア企画「日帰り外出(六甲オルゴールミュージアム)」	8名	7名	0名
平成26年 12月 6日(土)	3階フロア企画「豊谷よしゑ様 百寿祝い」	20名	1名	0名
平成27年 2月 3日(火)	3階フロア企画「節分行事」	30名	0名	0名
平成27年 2月 22日(日)	3階フロア企画「職員喫茶」	34名	14名	0名
平成27年 3月 26日(木)	3階フロア企画「高瀬文子様 百寿祝い」	26名	2名	0名
平成26年 6月 1日(日)	4階フロア企画「日帰り外出(淡路夢舞台)」	11名	13名	0名
平成26年 6月 24日(火)	4階フロア企画「水ようかん作り」	38名	0名	0名
平成26年 6月 26日(木)	4階フロア企画「谷川寿美枝様 米寿祝い」	21名	1名	0名
平成26年 7月 21日(月)	4階フロア企画「茶話会」	0名	12名	0名
平成26年 10月 26日(日)	4階フロア企画「日帰り旅行(神戸空港、どうぶつ王国)」	9名	9名	0名
平成26年 11月 8日(土)	4階フロア企画「古河薫様 米寿祝い」	1名	2名	0名
平成26年 11月 27日(木)	4階フロア企画「さつまいも団子作り」	33名	0名	0名
平成27年 1月 25日(日)	4階フロア企画「関ひさの様 白寿祝い」	11名	3名	0名
平成27年 2月 3日(火)	4階フロア企画「節分行事」	33名	0名	0名
平成27年 2月 22日(日)	4階フロア企画「職員喫茶」	37名	11名	0名
平成26年 5月 17、20、23日	SS外出企画「明石市立文化博物館」	4名	0名	0名
平成26年 10月 16、23日	SS外出企画「魚の棚商店街」	4名	0名	0名
平成26年 11月 12、13日	SS外出企画「明石公園 菊花展覧会」	4名	0名	0名
平成27年 3月 18、19日	SS外出企画「明石市立文化博物館」	4名	0名	0名

No. 4 実習生・研修生 受け入れ実績

月 日	習 名	学 校 名	人 数
平成26年4月16日～17日	兵庫県新任職員研修「福祉実習」	兵庫県職員	2名
平成26年6月2日～20日	ソーシャルワーク実習	大阪人間科学大学	1名
平成26年6月23日～7月22日	ソーシャルワーク実習	中部学院大学	1名
平成26年10月6日～12月18日	ソーシャルワーク実習	神戸学院大学	1名
平成26年10月14日～15日	明石市福祉施設体験研修	明石市職員	2名
合 計			7名

No. 5 研修実績

※ 内部研修報告書(資料Ⅱ)は別紙 添付

【施設外研修 参加実績】

月 日	研 修 名 ・ 講 師	参加人数
平成26年 4月 14日(月)	「今こそ、人材流出に現象に歯止めを掛けよう」 久田 則夫 先生	1名
平成26年 6月 4日(水)	「楽技介護で即実践！利用者が喜ぶ介護講座」 青山 幸広 先生	1名
平成26年 6月 12日(木)	「老人福祉施設新任職員研修」 兵庫県社会福祉協議会	2名
平成26年 7月 31日(木)	「新任職員OJT担当者研修(基礎編)」(兵庫県社会福祉研修所 主催)	1名
平成26年 8月 20日(水)	「拘束なき介護に向けての職員研修会」 出口 博久 先生、吉川 悠貴 先生	2名
平成26年 8月 28日(木)	「死までかわいわれる高齢者の介護現場」 鳥海 房枝 先生	1名
平成26年 9月 4日(木)	「新任職員OJT担当者研修(実践編)」(兵庫県社会福祉研修所 主催)	1名
平成26年 11月 21日(金)		
平成26年 9月 18日(木)	「チームアプローチ実践研修」 ちよん せいこ 先生	1名
平成26年 9月 27日(土)	「疥癬は怖くない！正しい理解とその対応！」 東川 俊昭 先生	1名
平成26年 10月 10日(金)	「認知症を含む精神疾患を有する利用者への対応」 柿木 達也 先生	1名
平成26年10/31 11/2、26、28	「介護福祉士実習指導者講習」	1名
平成26年 11月 3日(月)	「老人介護 基本の“き”」 三好 春樹 先生	2名
平成26年 11月 7日(金)	「介護事故予防・事故事後対策研修」 真辺 一範 先生	1名
平成26年 11月 11日(火)	「高齢者施設でのレクリエーション」 山崎 律子 先生	1名
平成26年 11月 18日(火)	「スタッフ・介護職を育てるために何が必要か」 高口 光子 先生	2名
平成26年 12月 2日(火)	「高齢者施設内感染対策研修会」 臼井 美賀代 先生	2名
平成26年 12月 5日(金)	「対人援助職の記録の書き方を学ぼう！！」 八木 亜紀子 先生	1名
平成27年 2月 12日、13日	「接遇・日常マナーリーダー研修」 田野 直美 先生、水谷 千代子 先生	1名
合 計		23名

No. 6 会議開催実績

【3階フロア会議】

年月日	主な議題
平成26年4月17日(木)	事業計画の実行計画について
平成26年5月10日(土)	事業計画の実行計画について
平成26年6月9日(月)	事業報告、居残り解消
平成26年7月1日(火)	SS荷物の取扱い
平成26年7月4日(金)	仕事のやり方について
平成26年7月10日(木)	排泄ケア
平成26年8月8日(木)	フロアの課題、SSの洗濯業務
平成26年8月31日(土)	書類提出、フロアのレイアウト
平成26年9月28日(日)	前回来議のモニタリング、情報共有
平成26年10月9日(木)	フロアの課題、レイアウト
平成26年10月28日(火)	事業計画中間報告、排泄ケア
平成26年11月7日(金)	事故予防、マナー向上
平成26年12月1日(月)	排泄ケア、マナー目標、配膳方法
平成27年1月15日(木)	マナー目標、食事ケア、排泄ケア
平成27年2月11日(木)	フロアの問題点
平成27年3月6日(金)	排泄ケア
平成27年3月21日(土)	フロアの問題点

【4階フロア会議】

年月日	主な議題
平成26年4月12日(土)	事業計画の実行計画について
平成26年5月29日(木)	マナーの向上
平成26年6月19日(木)	SS荷物チェックの取扱い、マナー向上
平成26年7月27日(日)	SS荷物管理、フロアの課題
平成26年8月20日(水)	フロアのレイアウト、業務分担
平成26年9月11日(木)	フロアのレイアウト、業務分担
平成26年9月28日(日)	食事の配膳方法
平成26年10月9日(木)	業務分担、事業計画中間報告
平成26年10月27日(火)	フロアの臭いを改善する
平成26年11月17日(月)	食事の配膳方法、フロアの臭い改善
平成26年12月17日(水)	下半期事業計画の実行計画
平成27年2月25日(木)	下用タオル、引き継ぎ
平成27年3月28日(土)	1年間の振り返り

【ショートステイ会議】

年月日	主な議題
平成26年5月29日(木)	荷物チェックの実施方法

【リーダー会議】

年月日	主な議題
平成26年4月11日(金)	新卒者研修、事業計画の遂行
平成26年5月15日(木)	事業計画進捗状況の確認
平成26年6月10日(火)	報連相ルート、職員研修会
平成26年7月15日(火)	報連相ルート、SS洗濯業務見直し
平成26年8月7日(木)	職員育成について
平成26年9月19日(金)	中途採用研修内部研修について
平成26年10月16日(木)	事業計画の中間報告
平成26年11月20日(木)	事業計画の中間報告
平成26年12月19日(金)	各種マニュアル整備、ケア方針
平成27年1月12日(月)	中途採用者オリエンテーション資料
平成27年1月16日(金)	マニュアル整備、マナーアンケート
平成27年2月6日(金)	中途採用者オリエンテーション資料
平成27年2月19日(木)	SS稼働率向上、次年度事業計画
平成27年3月5日(木)	中途採用者オリエンテーション資料
平成27年3月24日(火)	報連相ルート、次年度担当者等

【サービス担当者会議】

年月日	実施回数
随時開催	68回/年間

【カンファレンス・モニタリング】

年月日	実施回数
随時開催(3階)	68回/年間
随時開催(4階)	35回/年間

No. 7 音楽療法 活動実績 指導音楽療法士 竹田 典子 先生

実施日	参加人数	実施場所
平成26年4月8日(火)	19名	地域交流スペース
平成26年4月22日(火)	14名	地域交流スペース
平成26年5月13日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年5月27日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年6月3日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年6月17日(火)	14名	地域交流スペース
平成26年7月8日(火)	14名	地域交流スペース
平成26年7月22日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年8月5日(火)	15名	地域交流スペース
平成26年8月19日(火)	19名	地域交流スペース
平成26年9月2日(火)	15名	地域交流スペース
平成26年9月16日(火)	18名	地域交流スペース

実施日	参加人数	実施場所
平成26年10月7日(火)	13名	地域交流スペース
平成26年10月14日(火)	18名	地域交流スペース
平成26年11月4日(火)	12名	地域交流スペース
平成26年11月18日(火)	16名	地域交流スペース
平成26年12月2日(火)	20名	3階ホール
平成26年12月16日(火)	15名	地域交流スペース
平成27年1月6日(火)	15名	地域交流スペース
平成27年1月20日(火)	11名	地域交流スペース
平成27年2月3日(火)	16名	地域交流スペース
平成27年2月17日(火)	15名	地域交流スペース
平成27年3月3日(火)	12名	地域交流スペース
平成27年3月17日(火)	18名	地域交流スペース

No. 8 定期ボランティア 活動実績

活動者	活動内容	動日	活動場所	活動回数
竹田 典子 様	ピアノ演奏	毎月第1.3週火曜日 14:00~15:00	各フロア	22回
竹田 有里 様	音楽療法の補助	毎月第2.4週火曜日 10:30~11:30	地域交流	22回
長渡 節子 様	音楽療法の補助	〃	〃	11回
中山 邦子 様	音楽療法の補助	〃	〃	12回
ボランティアグループ「あじさい」	喫茶手洗い	毎月第1.3週水曜日 13:30~15:30	〃	16回

平成26年度 生活課 内部研修実施報告（資料Ⅱ）

全体研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成26年6月13日(金)14:00～15:30	口腔ケア研修	口腔ケアの基礎知識、技術の習得	明石デンタルクリニック	13名	中西彬、高橋、川原上、佃、太田、藤原、渡邊、田中、榎本、村田一瀬、池田み、三谷
平成26年6月20日(金)14:00～15:30	接遇マナー研修	法人接遇マニュアルに基づく研修	三谷 彰	14名	赤田、渡邊、太田、榎本、多賀、川添、甲斐、山根、高橋、中西彬野口、村田、龍造寺、三谷
平成26年7月18日(金)14:00～16:00	緊急対応研修	事故、急変時の初期対応、報告ルート	一瀬 明美	13名	飛鷹、三島、田中、芝本、池田、西角、川添、中西彬、高見、村田池田み、龍造寺、三谷
平成26年7月25日(金)14:00～15:30	脱水予防	ご利用者の脱水予防対策	食事委員会	14名	多賀、榎本、渡邊、中井、高見、中西彬、川原上、吉山、田中村田、宮崎、堂路、龍造寺、三谷
平成26年8月26日(火)14:30～16:00	便秘の知識と解消方法	便秘解消の基礎知識	排泄委員会	7名	多賀、榎本、中井、高見、中西彬、村田、三谷
平成26年9月25日(木)14:00～15:30	感染症対策研修	感染症対策の知識、感染物の処理方法	感染症対策委員会	11名	赤田、多賀、畑中、池田、中西彬、櫻井、高橋、三島、池田み村田、三谷
平成26年10月24日(金)14:00～15:00	遊びりテーション研修	遊びりテーションの実技研修	太田 創 川原上 翔馬	9名	池田、中西、佃、飛鷹、田中、赤田、太田、川原上、村田
平成26年11月28日(金)14:30～15:45	褥瘡対策研修	褥瘡の基礎知識、予防方法について	褥瘡対策委員会	10名	多賀、中西彬、道北、田中、榎本、高見、池田、吉山、川添、三谷
平成26年12月27日(土)14:00～15:15	高齢者に多い疾患と介護職員に気をつけて欲しいこと	高齢者に多い疾患の理解と、注意点	芝本 陽子 池田 みはる	10名	芝本、榎本、藤原、道北、佃、山根、松岡、一瀬、池田み、三谷
平成27年1月27日(火)14:30～16:00	認知症状と症状軽減の方法	認知症ケアの留意点	飛鷹 香織 赤田 健晶	12名	高見、佃、道北、中井、藤原、田中、中西彬、飛鷹、赤田、堂路小泉、三谷
平成27年2月20日(金)14:30～15:30	事故予防	事故予防の考え方、実践方法	事故防止委員会	10名	多賀、田中、池田、道北、櫻井、山根、吉山、榎本、堂路、三谷
平成27年3月23日(月)14:30～16:30	ターミナルケア	ターミナルケアの考え方	高見 大地 藤原 大樹	10名	高見、藤原、中井、松岡、中西彬、飛鷹、三島、池田み、龍造寺三谷

外部研修伝達講習

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成26年9月28日(土)14:00～15:30	外部研修伝達講習会①	外部研修の伝達講習	三島、佃、榎本 吉山、池田み	9名	三島、佃、榎本、吉山、川原上、赤田、池田み、村田、三谷
平成26年12月25日(金)14:00～15:30	外部研修伝達講習会②	外部研修の伝達講習	赤田、田中 中西、池田	12名	赤田、田中、中西彬、池田、多賀、中井、高橋、高見、湊、村田龍造寺、三谷

外部研修伝達講習(つづき)

平成27年1月20日(火)14:00～15:30	外部研修伝達講習会③	外部研修の伝達講習	飛鷹 香織 村田 亜由美	12名	赤田、飛鷹、藤原、三島、吉山、池田、高橋、高見、湊、村田 龍造寺、三谷
平成27年1月28日(水)14:00～15:30	外部研修伝達講習会④	外部研修の伝達講習	高見 大地、三谷 彰 三島 恭子	11名	三島、赤田、藤原、多賀、高見、松岡、池田、吉山、村田、龍造寺 三谷
平成27年2月27日(金)14:15～15:30	外部研修伝達講習会⑤	外部研修の伝達講習	一瀬 明美 太田 創	11名	太田、三島、高橋、芝本、高見、櫻井、山根、一瀬、湊、村田 三谷
平成27年3月20日(金)14:30～15:30	外部研修伝達講習会⑥	外部研修の伝達講習	太田 創		

フロア研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成26年8月9日(土)14:30～15:30	3階フロア研修①	全体研修の伝達講習	飛鷹 香織	5名	多賀、榎本、赤田、渡邊、飛鷹
平成26年9月30日(火)15:00～15:30	3階フロア研修②	全体研修の伝達講習	榎本 直行	5名	飛鷹、藤原、赤田、畑中、榎本
平成26年10月22日(水)15:00～15:30	3階フロア研修③	全体研修の伝達講習	太田 創	4名	飛鷹、中井、畑中、太田
平成26年11月10日(月)14:30～15:30	3階フロア研修④	全体研修の伝達講習	三島 恭子	6名	飛鷹、藤原、田中、中井、田中百、三島
平成26年11月24日(月)15:00～15:45	3階フロア研修⑤	全体研修の伝達講習	飛鷹 香織	5名	三島、藤原、道北、西口、飛鷹
平成26年12月20日(土)15:00～15:45	3階フロア研修⑥	全体研修の伝達講習	太田 創	3名	角田、道北、太田
平成26年7月12日(土)14:40～15:45	4階フロア研修①	全体研修の伝達講習	中西 彬人 高橋 みどり	9名	高見、吉山、西角、齋藤、堂路、佃、高橋、中西彬、三谷
平成26年8月8日(金)14:30～15:30	4階フロア研修②	全体研修の伝達講習	芝本 陽子	4名	高橋、佃、吉山、芝本
平成26年12月13日(土)14:30～15:30	4階フロア研修③	全体研修の伝達講習	高橋 みどり 川原上 翔馬	6名	佃、吉山、松岡、櫻井、高橋、川原上
平成27年1月13日(火)14:30～15:00	4階フロア研修④	全体研修の伝達講習	佃 裕太	4名	高橋、吉山、山根、佃
平成27年1月31日(土)14:30～15:00	4階フロア研修⑤	全体研修の伝達講習	中西 彬人	4名	佃、川添、高橋、中西
平成27年2月13日(金)15:20～16:00	4階フロア研修⑥	全体研修の伝達講習	中西 彬人	4名	佃、山根、弘田、中西彬

その他(小グループの勉強会)

日時	研修名	研修内容	担当者	参加人数	参加者
平成26年5月30日(金)16:00~17:00	小グループの勉強会①	ウンコ、シッコの介護学	排泄委員会	5名	佃、飛鷹、渡邊、川原上、田中
平成26年7月24日(木)16:00~17:00	小グループの勉強会②	褥瘡の基礎知識	褥瘡対策委員会	6名	中西、多賀、高見、田中、吉山、三谷
平成26年8月19日(火)16:00~17:00	小グループの勉強会③	移乗介助	太田 創	3名	太田、吉山、渡邊
平成26年9月1日(月)16:00~17:00	小グループの勉強会④	事故報告書、介護計画の書き方	龍造寺 千恵子	5名	佃、村田、飛鷹、畑中、龍造寺
平成26年9月4日(木)16:00~17:00	小グループの勉強会⑤	報告、連絡、相談	三谷 彰	3名	榎本、村田、三谷
平成26年10月12日(日)16:00~17:00	小グループの勉強会⑥	排泄について	排泄委員会	3名	佃、飛鷹、高見
平成26年10月24日(金)16:00~17:00	小グループの勉強会⑦	排泄について	高見 大地	3名	佃、高見、飛鷹
平成26年10月28日(火)16:30~17:30	小グループの勉強会⑧	記録の書き方	太田 創	3名	太田、多賀、飛鷹
平成26年11月6日(木)16:00~17:00	小グループの勉強会⑨	言葉遣い、電話対応	三谷 彰	5名	太田、飛鷹、道北、高見、三谷
平成26年11月13日(木)16:00~17:00	小グループの勉強会⑩	会議、カンファレンスのすすめ方	三谷 彰	3名	榎本、飛鷹、三谷
平成26年12月9日(火)16:00~17:00	小グループの勉強会⑪	排泄について	排泄委員会	2名	佃、飛鷹
平成26年12月17日(水)16:00~17:00	小グループの勉強会⑫	文書作成能力向上	高見 大地	2名	高見、飛鷹
平成26年12月29日(金)16:00~17:00	小グループの勉強会⑬	排泄ケアの読書会	排泄委員会	4名	佃、飛鷹、道北、高見
平成27年1月18日(日)16:15~17:15	小グループの勉強会⑭	排泄ケアの読書会	排泄委員会	4名	佃、飛鷹、高見、三谷
平成27年1月19日(月)16:00~17:00	小グループの勉強会⑮	事故事例の検討会	事故防止委員会	3名	榎本、飛鷹、三谷
平成27年2月2日(月)16:15~17:00	小グループの勉強会⑯	美味しい食事	高見 大地	2名	高見、三谷
平成27年2月5日(木)16:15~17:15	小グループの勉強会⑰	ホッとする入浴	高見 大地	3名	三島、榎本、高見
平成27年3月28日(土)16:15~17:15	小グループの勉強会⑱	排泄ケアの読書会	排泄委員会	3名	佃、飛鷹、高見

平成 26 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月20日
部門名	アネックス
責任者	松山 由香

収入稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	98.0%	288,989千円
	実績	95.6%	287,428千円
	差異	-2.4%	-1,561千円
	達成率	97.6%	99.5%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	稼働率の向上	稼働率98%	平成26年度は死亡に伴う退居者が9名、入院に伴う退居者が3名、他施設への転所者が1名で合計13名の入居者とお別れをさせて頂いた。この死亡退居に伴う新しい入居者受入までにかかった平均空床日数は6.65日/月だった。平成26年度の平均稼働率は95.6%/月だった。また稼働率に影響のあった入院については、年間延40件の入院者があり、そのうち1ヶ月程度の入院者が13名実在したことも稼働率低下に繋がったと考える。入院者及び死亡退居者を年間通じて軽減させていくためには、普段のケアの質の向上が必要で、入院や死亡と密接に連動していると考え。年末の12月に4名の方とお別れをしたことから、新しい入居者受入に時間がかかった要因の一つとして、ご家族の年末年始の多忙な時と重なり、入居の調整が難しかったこともあった。
	経費削減	電気、ガス、水道使用量の削減 平成25年度比較	(例) 電気使用量は昨年度より11(KW)超過、ガス使用量は昨年度より898(KW)削減、上下水道使用量は昨年度より85(m3)超過している。電気使用量については節電に努めたが前年の使用量より削減することが出来なかった。また、上下水道使用量についても、アネックス職員間で入浴時のお湯の使い方再度検証し改めて節約に努め、食器洗い時も節水を意識して取り組んだが前年度の使用量より削減することが出来なかった。
		使い捨てウエス(エコタオル)の充足	入居者ご家族にエコタオル(タオルやバスタオル類)の寄贈を呼びかけ、多くのエコタオルを頂いた。主に、便の後始末や、床掃除、感染症発症時のウエス等の用途で使用することを目的に、これからも継続して寄贈の呼びかけをしていきたい。
	オムツ代260万円未満	オムツ代については、年間3,612,376円(税込み)となり、今年度月平均が301,031円/月(税込み)を計上している。昨年度実績から、月平均9,713円程度の超過額となった。費用削減に繋がらなかった結果とあわせて、改めてオムツに頼る介護から脱却していく必要性を感じた1年だった。	
サービスの強化	ケアの三原則に基いた介護の実践	ケアの三原則が理解できる場を意識して持つ	先ずリーダーに必要な介護観というテーマで、7/18に「ケアの三原則」についての学びの場(内部研修)をリーダーだけで持った。その後、9/18には全職員対象にケアに大切なものというテーマで「ケアの三原則」についての学びの場(内部研修)を持ち、改めて対入居者との関わりについて、原点に戻れる場を持たせたことは、大変有意義であった。しかし、「ケアの三原則」を実践しなければ意味が無いので、今後少しでも実践に繋がるよう、継続して学びの場を持ちたいと考えている。
	介護事故の削減	ヒヤリハット様式の整備と服薬介助時の声だし確認の徹底	ヒヤリハット様式は新しく作成し、全ユニットに配備して7月～試行、運用となった。また、服薬介助時の手順を見直し、事故防止委員会主催で服薬介助手順の内部研修会を行った。その研修会の中で、服薬介助ミスを防ぐ為のツール(トレー等)を使って、声だし確認も含めた練習を行った。研修会終了後は、明らかに服薬介助ミスの数は減った。
	感染症予防	感染症予防策の徹底	うがい手洗い手順書を写真付きで作成し、アネックスのトイレ洗面所等の要所に掲示したことで感染症予防を徹底した。また、グローブテクニック、マスク、ガウンテクニックの研修を実施した。7月に疥癬発症者が出た時は、東川皮膚科の東川先生を招いて、個別の疥癬対応策を指導していただく場面を確保し、9月には講師として東川先生を招いて、内部研修会を実施した。その後、疥癬に対する職員の意識が激変し、気持ちが悪くなり、疥癬対応に自信が付き、疥癬等の感染症が発症していない現状であることは、大きな収穫であったと考えている。
	基本のマナーを身に付ける	接遇マナーマニュアルを使って具体的な内部研修を行う	平成27年1月9日と1月29日の2日間で、法人で作成した「接遇マナーマニュアル」のDVDを使って内部研修を実施した。研修内容は、主に言葉遣いや挨拶、電話対応等を学習した。特にDVDで紹介されていた「悪い見本、良い見本」の職員としてのあり方は、対ご利用者を意識した接遇にとって、どうあるべきか?を投げかけるものだった。

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
サービスの強化	看取りケアの充実	「看取り」を体験されたご家族から学ぶ場を得て、サービスの強化に繋げる	看取りを体験されたご家族から学ぶ場（内部研修の場）の確保は出来なかったが、施設で看取りをし、施設で葬儀をされたご家族から、直接いるんな「気付き」を頂いた。特に、施設配置医と、ご家族を交えて看取りの話し合いを行ったケースでは、ご家族の気持ちを職員全員で共有でき、その後の看取りケアをご家族と一体になって行う事が出来たと評価している。
	お年寄りにとっての快適環境の整備	図書コーナーの設置/各ユニット環境の整備に努める（衛生面に注意する）	組織改善プロジェクトチームを中心にリーダー会議構成員にて一番汚れが目立っていた、お風呂場の掃除を徹底的に行った。また、各ユニット内の環境整備についても、リーダーを中心に整理整頓を行い、より入居者が快適に過ごせる環境へと近づけた。図書コーナーの設置については、実行に移せなかった。
	移乗技術の向上	移乗技術の練習の場を確保する	6月から毎月1回「移乗技術広め隊」の向井・田中恒が中心となって内部研修を実施し、移乗技術の練習に励んだ。特に、移乗が難しい入居者の事例を取り上げて、具体的に移乗技術の選択肢を広げる為の研修の場をもてた事は、大変有意義であったと評価する。一方で、姫路北病院で行われた移乗技術等の研修会に自主的に参加し、自己研鑽に励んだ職員もあり、そこで獲得した技術を実践に生かす中で、自信を深めた職員が生まれ、全体的なボトムアップに繋がったと確信している。
	ケアプラン・サービスプランに沿ったケース記録の充実	ケース記録の書き方の統一を目指す	8月にリーダー会議構成員対象で、外部講師を招いてのケース記録勉強会を実施した。この研修を受けて、9月に一般職員を対象としたケース記録内部研修会を実施し、特にケース記録を記す際の基本的なルールを全職員で共有し確認できた。
業務の改善	情報共有（報告・連絡・相談）の充実	業務日誌の改善	業務日誌だけでなく、入浴チェック表、排泄チェック表、食事チェック表、リネンチェック表についても改善を図り、10/1～活用できるように整備した。その結果、「知りません。聞いてません」という声が顕著に減少した。また、業務日誌を、補完する形で「連絡ノート」を各ユニットに整備した事で、より細かい情報共有が可能になったと判断している。
	労働環境の改善	職員配置をフロア制から単独ユニット制へ	単独ユニット制へのスケジュールを策定し、その上で必要な課題をリーダー会議にて検討し改善策を見出した。その改善策を、全職員に説明する場を毎月1回確保し、説明会形式で情報共有を図った。職員からは単独ユニット制への不安や心配、また不満や反対の意見もあったが、リーダー会議構成員で思いを伝え続けた。10/1～単独ユニット制へ完全に移行した。また、10月以降、プライム江井ヶ島へリーダーが実施研修に出向き、単独ユニット制における自立支援について学べたことは、今後のケアの展開に生かせる機会になった。
		バリエーションに富んだ勤務シフトの創造	10/1～の単独ユニット制への移行を受けて利用者支援に必要なバリエーションのシフトを創造しつつ、現行のマンパワーで体制を構築した。実際に単独ユニット制に移行して間もない状況により、まだ入居者の自立支援にとって、どんな職員体制が必要であるかは、よく分からない現状であるが、現行のマンパワーの介護の質を高め、全体的なボトムアップを課題と捉えながら、「他責にしない人材の育成」が求められていると考えている。
人材組織力の強化	職員の資質向上と職員教育	効果的な内部研修の充実	上半期は特にリーダーの成長を主眼に置いた研修を意図的に実施し、研修を補完する形で面談を随時行った。リーダー一人一人に適した職員教育については、結果的に単独ユニット制導入等の準備によって、途中で頓挫したが、今後も継続して核となるリーダーの資質向上に向けた教育は、大変重要な命題であると判断している。内部研修計画に基づいた研修については、ほぼ予定通り実施出来た。
		横のつながりを意識したユニット間の連携強化	これまで実践してきたフロア制で得た横の連携を大切に生かしていければ、単独ユニット制に移行しても大丈夫だと確信している。それだけに、核となるリーダーの意識がぶれないように努めてきた。「感謝する」「褒める」「ねぎらう」「心配する」という4領域を声に出して言える職員が増えるようにリーダー全員で意識して実践していく事が求められているので、今後も継続して、この4領域を意識した連携を強化していきたいと考える。

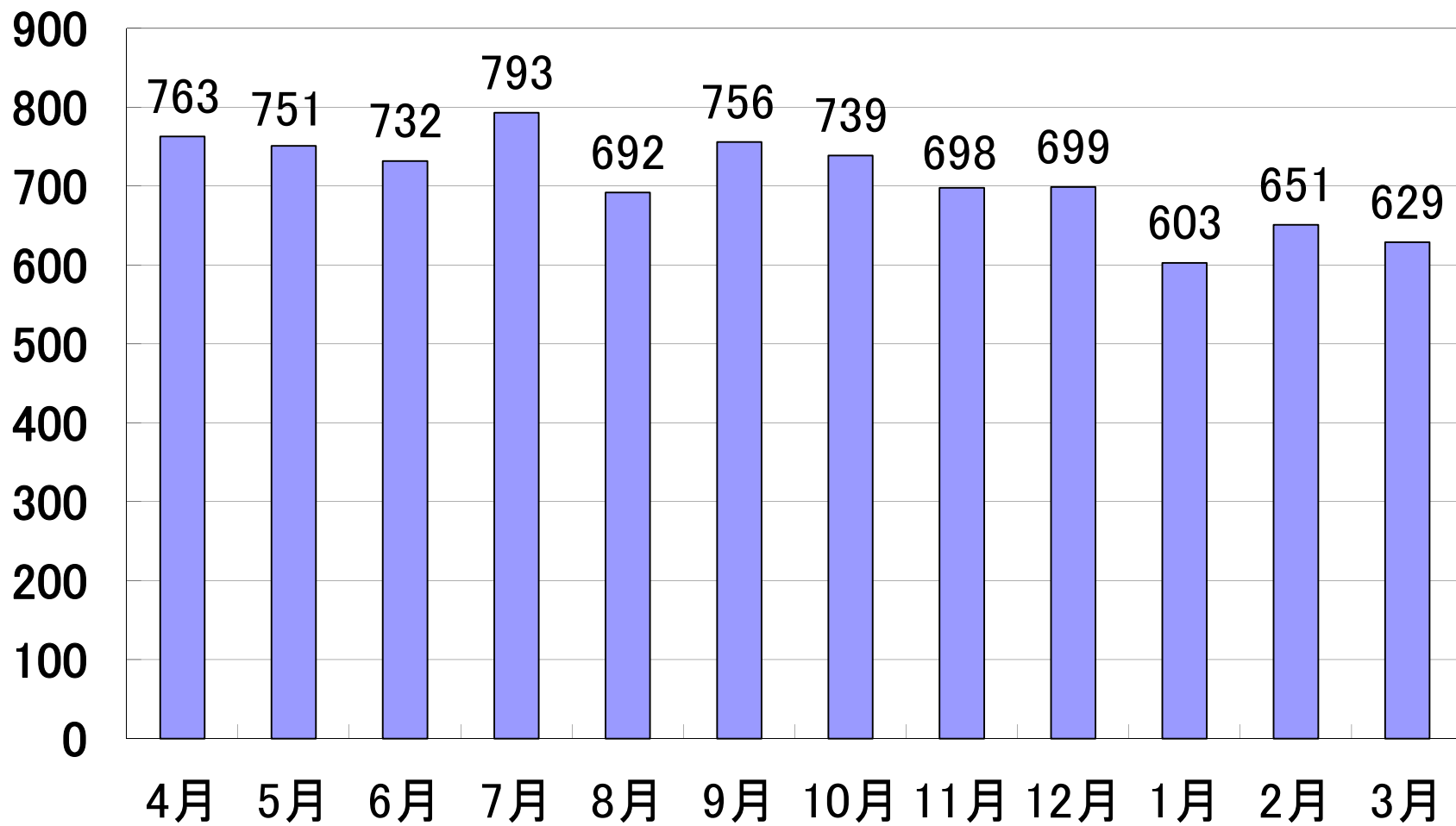
平成 2 6 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月20日
部門名	通所介護課（うらら）
責任者	小林 真也

項目	累 計	
	稼働率	収 入
収入稼働率	80.0%	84,000千円
目標	80.0%	84,000千円
実績	68.8%	78,578千円
差異	-11.2%	-5,422千円
達成率	86.0%	93.5%

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
財務状況の改善	居宅へのP R活動	7 0 0 万（月平均）	毎月の居宅周りや利用休止者へのアプローチ、担当者会議等、利用者支援に関する会議に随時参加しケアマネとの連携も図ってききましたが、目標達成には至りませんでした。通所介護と居宅事業所の合同部会に参加し、営業活動を行いました。行事毎のブログの更新や日々の利用の様子もブログに掲載しました。
サービス力の強化	レクの充実	レク会議の開催	年間で計画した行事や外出企画は全て実施することができました。毎月、レク会議を開催しレク内容の立案・企画、外出先の検討などを行いました。子供達との交流では、明光保育園や持子保育園の園児に來所して頂き、利用者との交流の機会を提供しました。個別レクとして、芸術祭に向けた作品や壁画作り、季節ごとに利用者との中庭の植え替えや手入れを行い、園芸にも取り組んで頂きました。外出企画として春と秋にピクニックを実施しました。季節ごとのドライブも行い、四季を楽しんで頂きました。運動を希望される方へは、5種類の運動メニューを用意し実施しました。運動が継続できるよう、四国八十八箇所めぐりと題して運動回数に応じて、スタンプを押していくスタンプラリーにも挑戦してもらいました。下肢の運動強化や転倒防止を目的にイージーウォークを購入し対象者に実施しています。
	芸術祭の開催	1 1 月開催	4月から作品作りに取り組み、計画通り11月に1週間開催することができました。お便りにて案内し、利用者家族やケアマネなど外部の方々にも見て頂きました。例年とは異なり季節ごとの壁画作りを行い、会場レイアウトにも工夫を行いました。きららの展示コーナーも設け、通所介護課として芸術祭のアピールを図りました。
	わくわくランチの開催	年 1 0 回	利用者から事前アンケートを取り、利用者の意向に添った食事提供を年10回提供することができました。手作りの熱々メニューを提供し、利用者に舌で味わい目で楽しむ食事を提供することができました。
	ケースカンファレンスを開催し、支援方法の確認と介護技術の向上を目指す	毎月開催	カンファレンスは毎月開催することができました。通所介護計画書の内容について参加者で確認し、計画書に基づくサービス内容の統一ができました。新規利用者及び個々の利用者の状況や支援についての話し合いを行うことで、対応等の職員間での共通認識がチーム力強化につながった。
	ケアプランの管理と運用	毎月管理表を掲示	担当者が管理し、毎月管理表を掲示して通所介護計画書の作成を促しました。計画書の更新、見直しを定期的に行えるようになり、職員の通所介護計画書に対する意識も高まりました。
	エコ活動に取り組む		ペットボトルのフタ・プルタブ・ベルマークの3種類を集める容器をデキ玄関付近に設置し、回収には利用者の協力も得ながら進めてきました。利用者の意識も高く積極的に参加して頂きました。集めた物を利用者と一緒に衣川中学校に持参し寄付をしてきました。利用者数名と同行し直接衣川中学校に行くことで、地域とふれあう良い機会となりました。
業務の改善	事故やヒヤリ・ハットを活かした業務改善	毎月評価する	発生時間・場所・出来事の情報をも毎月にまとめて分析を行いました。分析した結果を定例会議で報告し、対応策を話し合った上で業務内容や人員配置の改善を行いました。
	環境の整備		日々の清掃や整理整頓に加え、和室の片付けを行うことで静養室として活用することができるようになりました。毎日使う備品の整理整頓にも取り組むことができました。
人材・組織力の強化	職員のスキルアップ	内部研修の開催（2ヶ月に1回） 職員交流を毎月行う	年間計画通り内部研修を開催しました。職員参加率も高く、学ぶ意識を持って研修に参加している。随時職員の交流を行いました。両日で業務ができるスタッフも増え、充実したサービス提供を目指ことができました。接遇マナーに関して定例会議で見直しを行い、マナー向上にも努めてきました。職員スキルアップの取り組みとして、指導内容を日々の記録に記載し、毎月確認することで個別指導から全体への共通理解へと繋げることができました。

平成26年度 うらら 月別延べ利用者数



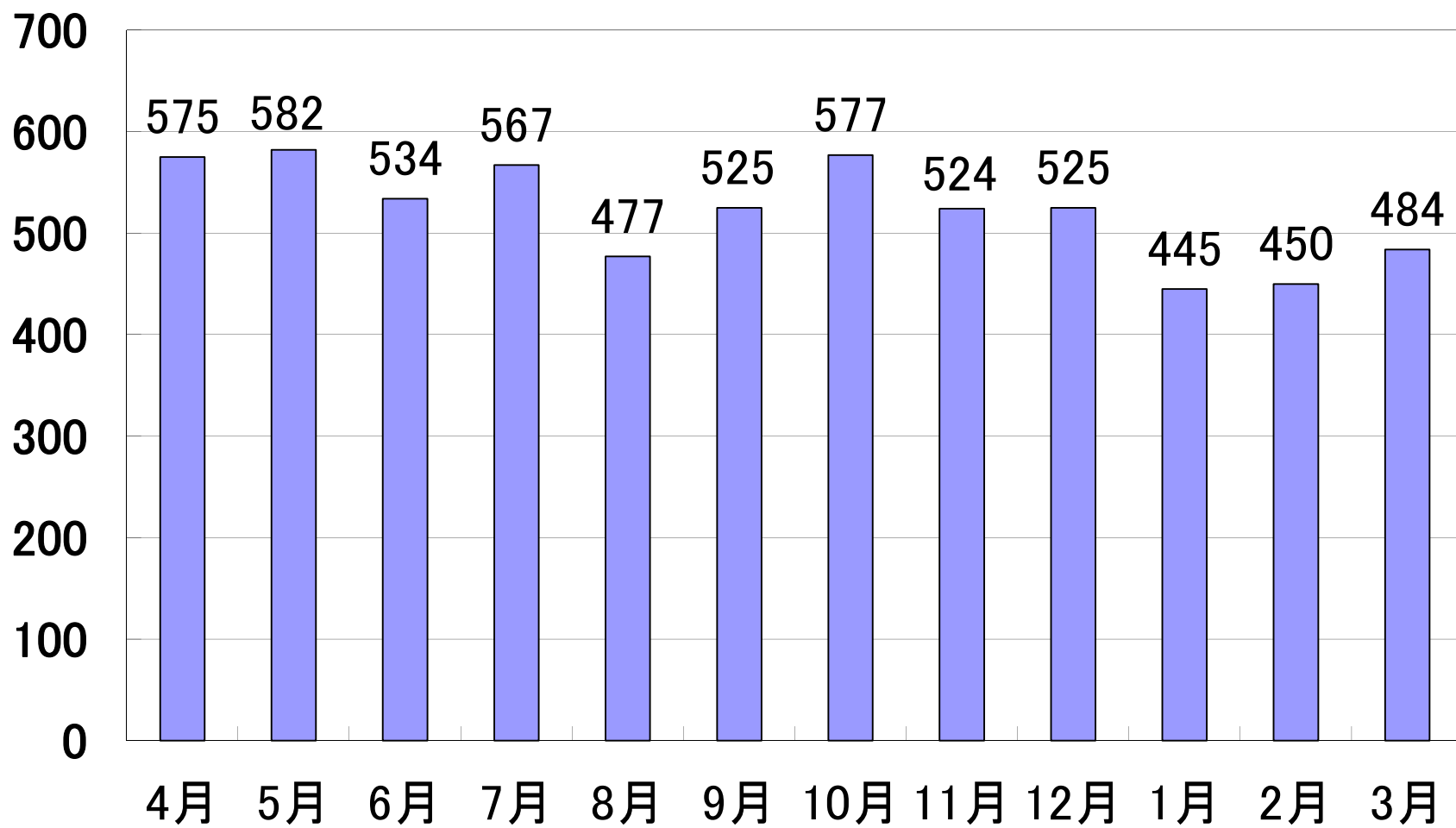
平成 2 6 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月20日
部門名	通所介護課（きらら）
責任者	小林 真也

収入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	70.0%	72,000千円
	実績	58.1%	57,509千円
	差異	-11.9%	-14,491千円
	達成率	83.00%	79.9%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	月間稼働率の安定化を図る	600万（月平均）	毎月の居宅回りや利用休止者へのアプローチ、地域すこやかサロンでのチラシ配布を継続して行いましたが、目標達成には至りませんでした。担当者会議等、利用者支援に関する会議は随時参加しケアマネとの連携も図っています。通所介護と居宅事業所の合同部会に参加し、営業活動を行いました。行事毎のブログの更新や日々の利用の様子もブログに掲載し、きららのプログラムを発信してきました。
サービス力の強化	選択レクの充実		前年度の末から取り組んでいる選択レクを継続して行ってきました。利用者が選択しやすい方法の検討や提供したレクの評価を毎月行い、利用者がより楽しめるレク活動の提供に取り組みました。セラバンド体操やDVD体操も導入し、運動機能の維持向上のニーズにも答えています。兵庫県老人福祉事業協会が主催する「利用者の日常生活行為向上を目指すデイサービスへのセラピストサポート研修」にも取り組み、甲南女子大学 竹内先生の指導のもと、要支援利用者への自立に向けたマネジメントについて取り組みました。余暇時間のプログラムも増やし、個別創作レクも行っています。制作して頂いた作品は、うららと協同開催した芸術祭やきらら作品展に出展し、たくさんの方に見て頂きました。
	行事、外出レクの充実	年間計画に基く	年間で計画した外出企画は全て実施することができました。個別遠足に関しては、サービス提供時間内に姫路への外出を実施しました。買い物ツアーは1週間開催し、毎月たくさんの方が参加して下さいました。初めての試みとして、お弁当を持参し少数で明石公園にピクニックに出かけました。季節ごとのドライブとして、住吉神社のアジサイや藤棚見学、人丸神社の梅見などにも出かけています。
	家族との交流	行事毎に参加者を募る	行事毎に参加案内を出し、家族15名・ケアマネ2名に参加して頂きました。デイでの利用者の様子が分かったり、サービス内容の理解につながりました。
	ケースカンファレンスを開催し、支援方法の確認と介護技術の向上を目指す	毎月開催	カンファレンスは毎月開催出来ました。新規利用者や状態に変化があった利用者について情報を集め、話し合いを行いました。入浴介助や日中の様子など意見交換することで、対応や介助など支援方法を統一することができました。1ヶ月後は、モニタリングを行いケアの提供状況の評価を行いました。
	ケアプランの管理と運用	毎月管理表を掲示	担当者が管理し、毎月管理表を掲示して通所介護計画書の作成を促しました。モニタリングやカンファレンスは随時開催し、きっちりした計画書管理ができています。
業務の改善	事故やヒヤリ・ハットを活かした業務改善	毎月評価する	ヒヤリ・ハット報告者は記録しやすいように、書式の変更を行いました。毎月の定例会議にて、発生件数や場所・時間を表にまとめて報告しています。内容確認や改善法について話し合い業務改善に繋げています。事故の定義を作成し、事故への意識を部署内で確認しています。
	環境の整備		清掃や整理整頓の意識も高く環境の整備に取り組んでいます。ホール内の備品（平行棒など）の移動を行い、使いやすくなったことで、利用者の活用頻度も増えています。各種配線にラベルを付け分かりやすいように工夫しています。塗り絵や脳トレ、それに伴う備品を棚に整理し利用者自ら選択して活動が出来るように配置しました。
人材・組織力の強化	職員のスキルアップ	内部研修の開催（2ヶ月に1回） 職員交流を毎月行う	年間計画通り内部研修を開催しました。職員参加率も高く、学ぶ意識を持って研修に参加しています。随時職員の交流を行いました。両デイで業務ができるスタッフも増え、充実したサービス提供を目指しています。接遇マナーに関して定例会議で見直しを行い、マナー向上にも努めました。

平成26年度 きらら 月別延べ利用者数



平成 2 6 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月20日
部門名	訪問介護課
責任者	大岡 則文

収 入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標		12,296千円
	実績		10,656千円
	差異		-1,640千円
	達成率		86.7%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	新規獲得 介護保険外サービスの実施	登録者数 40名 10月実施	3月末時点で登録者数31名で常時35名も達成できなかった。 ただ、毎月の居宅への営業活動は継続できており、新規の依頼も獲得できるようにはなっている。 介護保険外サービスは開始でき、介護保険で算定できなかった時間もカバーできている。
サービス力の強化	居宅支援事業所とのつながり強化 介護技術の向上と再確認	年2回	毎月の居宅への訪問の成果がゆっくりと出ており、一部のケアマネとは良い関係性を築けている。 毎月登録ヘルパーが事業所を訪れる際に介護技術の研修やコミュニケーションを取っており、サービス力は向上している。
業務の改善	訪問介護計画書の作成 手順書の見直し 基本情報の書式の見直し 事務所内利用者ファイルの整理 内部監査の実施	1回	書式については刷新するものは刷新し、残すものは残しやや整理ができ、訪問介護計画書の整備もできている。 内部監査は実施しておりませんが、兵庫県の監査でも指摘事項なく、提供責任者をはじめ、職員みなよくやっているという評価を受けたことは自信になった。 ただ、記録はまだ同じことを色々な書類に記入しているので、引き続き整理が必要。
人材・組織力の強化	職員全員のスキルアップ		内部研修、外部研修問わず登録ヘルパーには案内を行った。 外部研修にはなかなか参加してもらいにくかったが、提供責任者から技術指導等を行い、登録ヘルパーの育成に力を注いだ。 また、提供責任者が登録ヘルパーに対して、細やかに対応し、仕事がしやすいよう配慮している。

平成 2 6 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月11日
部門名	地域支援課
責任者	長尾史恵

収入稼働率	項目	累 計
		稼働率
	目標	33,945千円
	実績	33,791千円
	差異	-154千円
	達成率	99.5%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所加算 を継続して取得する ・収入月額243万円を達成する 	給付管理（介護）215万 （予防）10万 認定調査18万（目安）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度についても、特定事業所加算 の取得は継続 ・その他加算についても積極的な取得を行う ・収入月額については、（概算）介護での居宅介護支援費（1,851,283円）予防委託料（92,984円）認定調査委託費（287,213円）で、月額平均は、2,231,480円となり、年間を通じて平均での月額243万円については未達成。年間を通じて、給付管理数が低迷していた。認定調査については、積極的に受託し当初目標値を大幅に超過している。 ・新規ケースの受託については、平成26年度の実績は40件であった。新規ケースの依頼に対しては、積極的に応じているが、その一方で、死亡、施設入所、長期入院の増加もあり、給付管理数の増加につながらなかった面もみられる。
サービス力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所全体でのケアマネジメントの質の向上を図る 		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、課内ケースカンファレンスの際に、ケース検討を実施。それぞれのCMが課題を感じているケースについて、他職員の意見を求め、ケアマネジメントについても検討する機会となっている。 ・課内研修については、それぞれが担当を決め、課内でプレゼンを行う形で実施。今年度のテーマは、「バリデーション入門編」「サービス展開におけるリスクマネジメント」「相談援助職の記録の書き方」「災害が起こる前に私たちは何が出来るか、何をしておくべきか」「障害福祉施策」「高齢者虐待について」「地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割」となっている。 ・地域包括支援センターの実施する研修会その他についても参加し、伝達研修を行い、研修機会を確保している。
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれがコスト意識を常にもって業務にあたる ・個人情報の取り扱いに注意する ・情報伝達手段の見直し ・部署内で忌憚ない意見が交換できる 		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト意識については、空調、電話の使用、ファイルの再利用、両面印刷といった個人でも取り組める内容については個々の努力で行っている。 ・個人情報の取り扱いについては訪問以外の持ち出しを禁止している。在宅介護支援センターの台帳については1台のPCのみで管理。 ・情報伝達手段については、電話が中心にはなっているが、その他、FAX・メールの使用も行う。電話代については、前年度比で減少している月もみられた。 ・課内カンファレンス、課内会議、ケース検討にて、積極的な意見交換を進めている
地域資源になりうる事業所・人材となる	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護支援センターとして、地域でのより所となれるための連携を進める ・地域づくりの視点ももち、支援センターならではのアウトリーチ機能も活かして地域へのアプローチを進める 	年 6 回	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術教室については、アネックス職員の協力を得て年間2回実施する。各地区社協会長へ働きかけ、小学校区単位での開催を目指した。技術教室のみでなく、介護保険制度、認知症サポーター養成講座を併せて行う形をとった。 ・きららデイサービスセンターを利用したのサテライト相談については、毎週2回実施。実際に来所での相談を受けることが少なく、次年度については支援センター職員が事務所待機する形で、来所があった場合に即応できる体制をとることを検討。 ・認知症サポーター養成講座については、衣川すこやかサロンで1回実施、その他高年介護室からの依頼での実施（対象は、銀行、民生児童委員等）、王子小学校コメンセン、林コメンにて実施（介護技術教室と組み合わせ）、大観校区の自治会より依頼を受けて実施している。 ・その他、衣川コメンより高齢者大学の講師依頼を受け、11/13実施。
社会福祉法人としての地域への社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の相談窓口としての機能を活かし法人全体が地域貢献のできるよう、内外へ情報発信を行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度実施事業の運営（介護技術講習会、認知症サポーター養成講座、サテライト相談）を通じて地域へのアプローチを行う。認知症に対する関心の高さがうかがわれる1年であった。 ・ケースを通じての地域からの情報やニーズについて、課内で意見交換を行い、年度末に文書にて提出。次年度も継続。

平成26年度事業報告書

報告日	平成27年5月20日
部門名	グループホーム プリランテ明石
責任者	米井 秀彰

収入 稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	98.5%	83,351千円
	実績	95.4%	82,676千円
	差異	-3.1%	-675千円
	達成率	96.9%	99.2%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	・安定した収入を確保する	稼働率98.5% 加算の算定	3年目に入り入院件数が増加し、9件、計約150床となった。また、入院から退居となるケースも多く、計7件の退居があった。退居後、新入居までに時間がかかってしまい、空室期間が平均一ヶ月弱となってしまっている。要因としては、退居が決まってから、面接を行っていることや診療情報を提出して頂くまでに検査等で時間がかかることが挙げられる。次年度はこの空室期間の短縮に向けた取り組みが必要である。 サービス提供体制強化加算()は年間通して、算定できている。
	・コストの削減		徹底までは出来ていないが、以前に比べるとデマンド警報が鳴る事がなくなっている。
サービス力の強化	・今までに行っていない形の地域とのつながり作りや貢献にも取り組む		地域支援課が行った地域住民向けの認知症サポーター養成講座で、グループホームの入居者様のご家族に体験談を話してもらう機会を作ることが出来た。 王子幼稚園の運動会に招待してもらい、見学することができた。今後も恒例行事として、参加させて頂くことが出来そう。 避難訓練には、南に隣接する住宅街のお宅にはお知らせを配るようにしたが、それ以上の事は行っていない。今後、避難訓練への参加を呼び掛けるなど、積極的な働きかけが必要。
	・入居者さん一人一人に目を向けた取り組み		退職によって、人員不足となり、下半期は1日かけての個別の外出は難しくなったが、行きつけの喫茶店に行くなどの外出は続けられている。また、外出だけでなく建物内での関わりや、生活空間の見直し、居室の整理などは前年度よりも出来るようになってきている。
	・認知症ケアについて深めていく		周辺症状や心理的な部分を考慮したアセスメントやケアプラン作りはなかなか上手く進められていない。ただ、外部評価で提案されたように、アセスメントやケアプランの作成については、やり方を変更し取り組んでいるところである。 認知症ケアに関して、部署内会議や内部研修、カンファレンスなどで話をする機会がある。 今年度は、周辺症状の悪化による入院が2件あり、認知症の部分での医療との連携の必要性を感じた1年になった。この点に関しては来年度以降の課題である。
業務改善	・業務の洗い出しと実施する時間帯の見直し		ケアチェックシートの見直しを定期的に行い、大幅な変更はないものの、不必要な業務やケアがいくつか削減できた。
	・動線の短縮を考える		パッド類の置き場所を見直した。 買い物の担当を月初めに決めることで、相談に時間がかからなくなった。
人材組織力の強化	・人権意識の高いパートナーの育成		部署内会議に理念集、接遇マニュアルを持参することとしているが、定着していない。また、意識を高めるため接遇マニュアルの読み合わせを、部署内会議で何度か行ったが、責任者が出席しなくなってからは、行わなくなってしまった。理念集や接遇マニュアルを普段から目にするような取り組みが来年度以降の課題である。
	・働き続けられる職場環境づくり	退職者が出ない	『食事を一緒に食べることも仕事』とのことなので、休憩時間は食事以外で60分とし、実際に取れるようになっていない。 今年度は7名の退職者が出た。理由としては、家庭の事情、病気、好条件を求めての転職などもあるが、認知症介護への疲れや上司、事業所、法人への不信感や考え方の違いによる退職もあった。また、心理的な負担による退職者も1名。

平成 26 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成27年4月
部門名	総務部
責任者	松浦 養

収 入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標		
	実績		
	差異		
	達成率		

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消耗品のコスト削減。 ・ 収支状況を明確化する。 	各会計の収支を数値化し、分析する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点取組課題の「収支状況を明確化する」のとらえ方が、総務と現場の間で隔たりがあった。が、前向きに要望に対して各部署と話ができた。施設長の財務状況の把握の意味を、他部署と共有できていなかったのが原因とも考えられる。次年度は、初回までに施設長に再度主旨確認し共有確認後行う。 ・ 経費の数字の要望が上がってくる一部の部署には、経費節減に繋げることができて良かった。
サービスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客満足度の向上 	<p>多くの入居者の情報を知り、介護職員と連携が取れ、お客様に満足して頂けるようにする。</p> <p>入居者・利用者・その家族・お客様に対して好印象を受ける挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場のカンファレンスにも参加し、利用者のニーズや家族の要望に応えることが出来たと思う。 ・ 窓口での苦情が無くなってきた。 ・ 顧客の満足度を測ることは難しいが概ね部署として達成できた。 ・ 気持ちのいい挨拶を各職員が意識し、行っていたが、好印象を受ける挨拶まではできたかどうか分からない。
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務内容の明確化とフォロー体制の明確化 ・ 残業の管理 ・ 食事に係る連携の改善 	<p>主と副がチェック機能を活かせる体制にする。</p> <p>全職員が退社定時時刻1時間以内に退社する。</p> <p>随時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主、副の明確化は行っていなかったが、お互いの仕事のフォロー体制は確立できていたと思う。 ・ 給与関係では、担当業務の変更案を立案し、4月からの業務へ反映した。 ・ 「連絡を聞いていない」ということが減り、情報を共有できるようにした。 ・ 残業に関しては今年度は残業時間数を大幅に削減でき、達成することができた。 ・ 宮崎と平木との連絡ノートを一年間続けたことで、他部署との連絡に関する事案を解決してきた。次年度も引き続き行っていく。 ・ 管理栄養士が変わり、今年度で一年を通しての行事関係を把握できた。委託業者の協力もあり、無事乗り切ることが出来た。
人材・組織力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材の確保 ・ 人事の流失の歯止め、定着率 up ・ 人材育成 	<p>各部署がスムーズに業務に専念できる職員数を確保する。</p> <p>法人として全職員が同じ待遇になるようにする。</p> <p>研修に対して意志統一をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員と会話を多く持つことで、退職を止めることができた事例もあった。 ・ 新卒を10名確保できたが、課長が新卒を採用しても既職員に迎える気持ちがなければ、退職を防ぐことは困難ではないか。10名の内訳は学校の先生の紹介6名、ハローワークからの紹介2名、福祉フェアより1名、リクナビより1名であった。次年度はより学校の先生と協力体制をとり、又リクナビよりマイナビに変更したことにより、より多くの学生が採用できるようにしたい。 ・ やめない人づくり、体制づくりを継続して考えていかなければならない。 ・ 法人としての異なる待遇に関して上司に書面等で提案していく。 ・ 外部研修を受けてきた職員がその内容を伝授するようにはできたが、今後も継続していく。

平成 26 年度 事業 報告 書

報告日	平成27年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 特養
責任者	竹内 民子

収入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	98.0%	332,536千円
	実績	98.2%	334,385千円
	差異	0.2%	1,849千円
達成率	100.2%	100.6%	

視 点	重点取組課題	目標値	総 括																									
財務状況の改善	稼働率	98%	稼働率・・・98.2% <上半期97.8%/下半期98.6%> 空室延べ日数・・・468日 (新規入所に要した日数109日、入院日数359日<上半期77日/下半期32日>、外泊日数0日) 退所者・・・12名 入所者・・・14名 <上半期10名/下半期4名> 入院延べ人数・・・17名 <上半期12名/下半期5名>																									
	電化製品の故障、修理代を減らす		電化製品の使用方法については、取扱い説明書に記載されている通りの適切な使用に努めた。そのような中で使用頻度の高い洗濯機の故障が相次ぎ、修理や買い替えて経費を圧迫する状況となったものの、経年劣化ともいえる状況でもあり対策に苦慮した。洗濯機の駆動回数を減らす対策としてリース導入を検討、調査を開始した。駆動回数が減れば、職員の業務負担の軽減、水道光熱費の削減にもつながり、故障や買い替えによる出費の抑制にも結び付くため、次年度リース導入に向けて早急に取り組む事とした。																									
	経費削減	電気の点けばなし、湯の出しばなしを無くす	冷暖房の設定温度に関しては、入居者の状態を観察しながら個別に調節したが、基本的には夏場冬場で設定温度を管理快適に過ごせるように努めた。また、浴槽に湯を溜める際のタイマーの活用や居室など誰もいない場所での電気の消し減らす努力を続け、使用量を昨年度よりも減らすことができた。しかし、電気・ガス料金の値上げにより水道光熱費は約22,79万円となり、昨年度より約50万円のアップとなった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">使用量</th> <th colspan="2">料金</th> </tr> <tr> <th></th> <th><25年度></th> <th><26年度></th> <th><25年度></th> <th><26年度></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気</td> <td>455,267kW</td> <td>440,298kW</td> <td>8,381,123円</td> <td>8,834,750円</td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>66,42</td> <td>61,847m³</td> <td>7,523,1</td> <td>7,646,573円</td> </tr> <tr> <td>上下水道</td> <td>10,988m³</td> <td>10,672m³</td> <td>6,389,698円</td> <td>6,316,100円</td> </tr> </tbody> </table>		使用量		料金			<25年度>	<26年度>	<25年度>	<26年度>	電気	455,267kW	440,298kW	8,381,123円	8,834,750円	ガス	66,42	61,847m ³	7,523,1	7,646,573円	上下水道	10,988m ³	10,672m ³	6,389,698円	6,316,100円
		使用量		料金																								
	<25年度>	<26年度>	<25年度>	<26年度>																								
電気	455,267kW	440,298kW	8,381,123円	8,834,750円																								
ガス	66,42	61,847m ³	7,523,1	7,646,573円																								
上下水道	10,988m ³	10,672m ³	6,389,698円	6,316,100円																								
消耗品の無駄をなくす		家事援助検討会で、洗濯物に対する液体洗剤ビッグや漂白剤ワイドハイタ、ハイタの使用量を話し合い、容器から適当に入れるのではなく、きちんと計量して使用する事を申し合わせ、各職員に委員から伝達した。ユニットで家事を苦手とする職員を対象に洗濯の勉強会を行い、直接指導を行った。これからも適量使用を意識して洗剤だけでなく、他の消耗品の無駄を意識してコスト削減に努めたい。																										

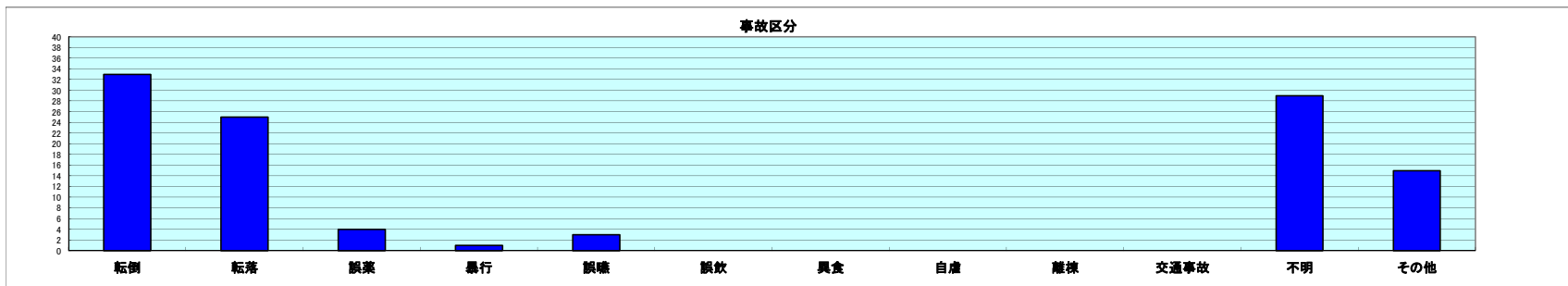
視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	経費削減	おむつ代240万円未満	<p>入居者の排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行い、トイレに行く当たり前の排泄介助に取り組んだ。また、膀胱容量にパッドを選択しコスト削減に努めたものの、前年と比較して全てのユニットでコスト増となり、累計額では目標値を大 約28万円のアップとなった。次年度は、各ユニットで目標設定を行い、コスト減に努めたい。</p> <p>累計 < 2,648,842円 > 1丁目ユニット【422,584円】 5丁目ユニット【438,743円】 8丁目ユニット【306,753円】 2丁目ユニット【310,476円】 6丁目ユニット【288,311円】 10丁目ユニット【225,460円】 3丁目ユニット【344,791円】 7丁目ユニット【311,724円】</p>
サービス力の強化	介護サービスの質の向上	ケアプランとケアの連動	<p>出前カンファレンス（モニタリング）時の資料を依頼する時に24時間シートの見直しを義務付けたため、2～3か月に1度確実にシートの見直しが出来た。期間途中で看取りになったり、状態が変わった利用者のプランの見直しを行った。ニーズの表現の仕方や書き方についてはその都度指導したが、経験年数や能力により差があり、まだまだ不十分と感じる。ケアプランに基づいた記録は内容に差はあるが、全員意識して出来ている。ケアプランの見直しについては、今のプランの内容の修正が主になっており、利用者のその時の状態や変化を見落としている場合があり、「利用者本人を観る」目を育てなければならぬと感じる。ご本人、ご家族の意向はケアプラン担当者が介助時や面会時に伺っている。</p>
		入居者及び家族の思いを汲み取れる看護	<p>施設の行事や小さなお出かけ、散歩など優先的に参加、付き添う事で住人さんやご家族の方と楽しく関わる事ができた。カンファレンス出席時には、事前に医務内で情報収集し参加する事ができた。</p>
		ケアの三原則の理解と実践	<p>ケアの三原則に沿った生活支援を行う努力は続けているものの、全ての職員が三原則の意味を理解して実践するまでには至っていない。改めてケアの三原則について話し合える機会を作り、職員がどのように理解しているのか確認が必要であると感じた。</p>
		便失禁が減り、トイレでの排便が増える	<p>ユニット内で下剤を使わない自然排便に取り組んだり、入居者の排便サイクルをつかんでトイレ誘導を行うことで、便失禁していた7名の入所者がトイレで排便を行える様になった。</p>
		入居者が満足いく食事の提供	<p>出来る限り食事の嗜好や、食べやすい食形態の提供に厨房とユニット、他部署と協力し、取り組むことができた。プライム調理については、年間で計14回（合同プライム調理含む）実施し、利用者にお好きなものを食べて頂くことができた。栄養計画書に基づいた食事の提供とモニタリングについては、今後は両方がすぐにリンクして活かせるように、スムーズに行っていきたい。</p>
		宿泊温泉旅行の実施	<p>宿泊温泉旅行は業務の調整が難しくなり来年度に見送り、H27年11月の実施予定とした。10周年記念では特別なイベントは行わなかったが、秋祭りで10周年記念のタオルを入居者家族へ贈ったり、プライムの歩みとしてスクリーンの上映会等を行い、十分喜んで頂けた。</p>
	介護事故削減	職員全員が常に服薬介助の声出し確認ができる	<p>誤薬事故の予防としては、例年通り、服薬介助時の声出し確認『薬袋の名前を声に出し、入居者の顔を見て、間違いがない事を確認してから介助する事』をユニットで徹底して行った。薬ケースの設置方法を変えたり、設置場所を統一する等して、誤薬事故の削減に取り組んだ。必ずしも声出し確認を行えさえすれば事故は防げるとは言えず、介助者の思い込みで誤薬事故に繋がるケースもあるので各々がその時その時に集中して介助にあたる事が大切であると痛感した。</p>
		勉強会の振り返りと技術の定着	<p>昨年実施した施設内研修会の振り返りとして、車椅子介助、歩行介助のポイントを整理したり、褥瘡予防のための知識と方法について再確認を行った。</p>

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
サービス力の強化	感染症予防	集団感染を起こさない	施設内研修では、ガウンテクニック（感染症の標準予防対策）の実技研修をテスト形式で行ったが、ほぼ全ての職員が正確に行うことができた。インフルエンザやノロウイルスによる集団感染については、手洗いやうがいを徹底し、例年通り予防に努めた。
	地域との連携強化	地域の行事、活動への参加	江井島地区の行事・活動への参加として、11月の江井島スポーツフェスティバルは天候不良のため参加を見送った。ため池クリーンキャンペーンは、3名の職員が地域住民と共に清掃活動に参加した。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	休憩時間の取得、時間外労働の削減を行い、勤務状況を改善する	休憩時間の取得の実態としては、ユニット差があり、取れるユニットと取れないユニットがあった。今年度も各ユニットで休憩の取得に努めたが、全ユニットが取れるまでには至らず、課題の残る結果となった。次年度も引き続き、時間外労働の削減と休憩の取得に取り組むこととした。
		全員が事故、ヒヤリハットの区別をして記録できる	運営会議において、事故とヒヤリハットの境界について今後法人で統一してはどうかとの提案もあり、今年度の取り組みは見送った。
人材・組織力の強化	職員の資質向上	申し送り能力の向上	連絡ノートや伝言メモを利用して全員が情報を共有するようになり、以前に比べて「聞いている、聞いていない」がなくなった。ただ、連絡ノートを中止し、パソコンの伝言メモだけにしてしまったユニットがあった。記録に残る物として連絡ノートで伝える必要性や意味をリーダー会で話し合い、ノートを復活させ、伝言メモは記録に残さなくて良い物だけの為に使う事になった。
		介護施設におけるマナーを知って、実践する	全体会議で担当者から接遇マニュアルの内容について説明を行い、全職員にマニュアルを配布した。内容に関しては各部署で周知徹底するよう呼びかけ、8月には施設内研修でDVD鑑賞を行った。久ロックスの使用に関しては、接遇面から見て、見た目がカジュアルすぎて職場には適さないとして基本的に使用を禁止した。また、入居者への言葉遣いでは、忙しい場面でも丁寧な関わりや声掛けを行っていく事を共通の認識として取り組んだ。
		知識、技術力の向上	担当者が1年間取り組んだポジショニングの効果について、3月に3回全職員対象で報告会を実施した。報告会を受け、ポジショニングの事をもっと知りたいと意欲的な職員が多かった。
		基本のきに沿った介護の実践	食事、排泄、入浴に関する介護方針「基本のき」を各ユニットで再確認する機会をつくった。日頃、同じユニットの職員同士がじっくりと方針を確認し合う場がなかったため、職員からは「分からない事や確認したい事が話し合えて良かった。今後もこのような機会は必要。ユニットでさらに思いを深めていきたい。」と実践に繋がる感想も聞けた。
	職員の定着	離職率の低下	常勤、非常勤合わせて6名が退職した。【4月2名、8月1名、9月1名、11月1名、3月1名】

平成26年度 介護事故データ

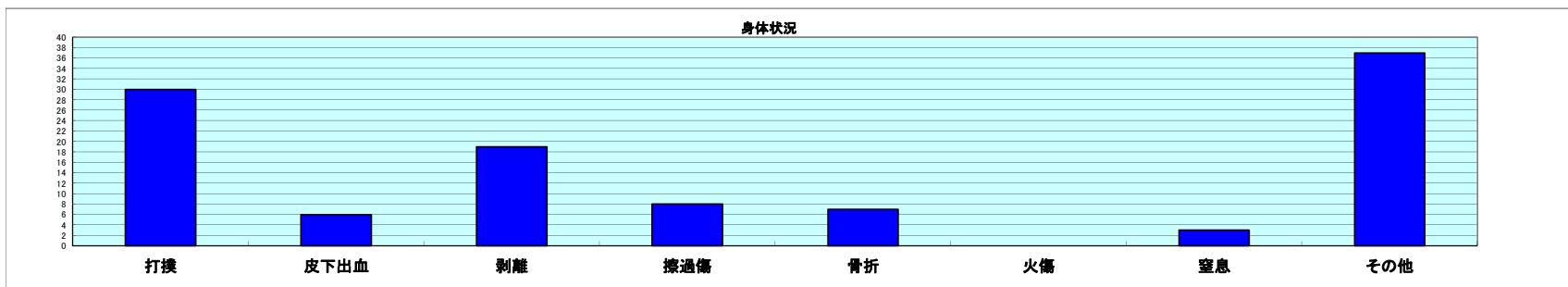
事故区分

件数	転倒	転落	誤薬	暴行	誤嚥	誤飲	異食	自虐	離棟	交通事故	不明	その他	合計
	33	25	4	1	3	0	0	0	0	0	29	15	110



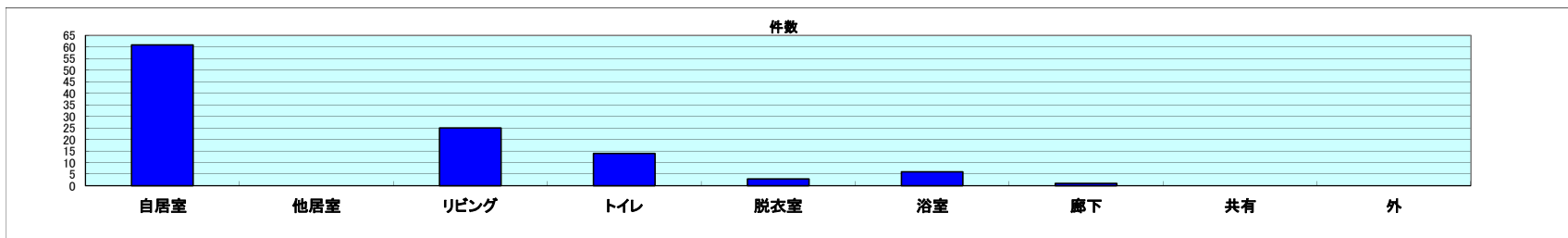
事故による身体状況

身体状況	打撲	皮下出血	剥離	擦過傷	骨折	火傷	窒息	その他	合計
件数	30	6	19	8	7	0	3	37	110



事故の発生場所

場所	自居室	他居室	リビング	トイレ	脱衣室	浴室	廊下	共有	外	合計
件数	61	0	25	14	3	6	1	0	0	110



平成26年度 施設内研修実施報告

実施日時		研修内容	参加人数
4月30日(水)	15:00~16:00	遊びリレーション	9名
5月22日(木)	15:00~16:00	食中毒	17名
5月28日(水)	15:00~16:00	ケアプラン	8名
5月29日(木)	15:30~17:00	基本動作	13名
6月19日(木)	16:00~17:00	接触嚙下障害	19名
6月13日(金)	15:00~16:00	夜間救急	8名
7月14日(月) 21日(月),29日(火)	15:30~17:00	基本動作	15名
7月21日(月)	15:00~16:00	家事援助	18名
8月4日(月) 15日(金)28日(木)	15:00~16:00	バリデーション	57名
8月1日(金)9日(土) 13日(水)25日(月)	15:00~15:40	接遇	55名
9月5日(金)	15:00~16:00	感染症(吐物処理)	14名
9月12日(金)	15:00~16:00	感染症(吐物処理)	13名
9月19日(金)	15:00~16:00	感染症(吐物処理)	17名
10月9日(木)	15:00~17:00	入浴	19名
10月15日(水)	15:00~17:00	入浴	17名
10月24日(金)	15:00~17:00	入浴	14名
11月12日(水)	15:30~17:00	食事	19名
11月21日(金)	15:30~17:00	食事	18名
11月25日(火)	15:30~17:00	食事	15名
12月11日(木)	15:30~17:00	排泄	17名
12月17日(水)	15:30~17:00	排泄	16名
12月22日(月)	15:30~17:00	排泄	18名
2月11日(水)	15:30~17:00	リスクマネジメント	19名
2月20日(金)	15:30~17:00	リスクマネジメント	16名
2月24日(火)	15:30~17:00	リスクマネジメント	16名

平成26年度 施設外研修実施報告

実施日時	研修内容	参加人数
6月5日(木)	老人福祉施設新任職員研修	1名
7月27日(日)	食事場面の車いすシーティング	1名
7月28日(月)	地域サポート型特養事業報告会	2名
8月22日(土)	排泄介助(おむつ交換)	1名
9月17日(水) ~9月19日(土)	ユニットリーダー研修(講義)	1名
10月11日(土)	リスクマネジメント	3名
10月13日(月) ~10月17日(金)	ユニットリーダー研修(実地研修)	1名
10月23日(木)	ユニットケアを通して個別ケアを考えよう~従来型特養にも対応できるユニットケア	4名
11月18日(火)	「スタッフ・介護職を育てるために何が必要か」 ~職員が育ち、辞めない職場を作るために~	9名
11月22日(土)	ナースのための最新の口腔ケア・オーラルマネジメント	2名
12月19日(金)	HIV/エイズの正しい知識~知ることからはじめよう~	1名
3月22日(日)	新しい視点からの拘縮予防と褥瘡予防 ポジショニングとシーティングを極める	1名

平成26年度 ボランティア活動受け入れ実施報告

音楽療法	1名	4月19日、5月31日、6月21日、7月19日、9月20日 10月11日、11月30日、2月21日、3月21日
カラオケ	1名	4月28日、5月19日、6月23日、7月22日、8月25日、9月22日 10月28日、11月24日、12月25日、1月30日、3月23日
美化活動 入居者との交流	1名	5月10日、8月14日、8月25日 11月22日、12月15日、12月28日、12月29日
家事援助	1名	11月24日
入居者との交流	1名	1月5日
秋祭り	19名	9月27日
餅つき	14名	12月26日

平成 26 年度 事業 報告 書

報告日	平成27年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 ショートステイサービス
責任者	横岩 大輔

収入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	90.0%	44,366千円
	実績	82.4%	41,068千円
	差異	-7.6%	3,298千円
	達成率	91.6%	92.6%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括	
財務状況の改善	稼働率	90%	稼働率82.4%。ロング利用者2名。目標稼働率には届かなかった。利用日数が多かった定期利用者の他施設入所や死亡・入院による利用キャンセルが多くみられた。 空室状況を事業所に毎月1回以上FAXを送り、ホームページに空室状況を反映させていたが、長期利用者の獲得ができなかった。 4月から部下2名に相談員業務を教えて分担し、7月から各々1人で出来るようになった。 来年度は空室状況を各事業所・利用者家族に知らせる機会を増やし、特養・居宅の協力を得ながら長期利用者を獲得する。それにより目標稼働率の達成と安定収入の確保に努める。	
	顧客の確保	新規利用者のうち半数以上をリピーターにする	新規利用者33名中、リピーター16名。新規利用者の半数が2回目以降の利用があった。 利用日数が少なく、毎月の定期的な利用の方は少なかった。また、利用後に他施設入所や入院・死亡するケースがあった。 また、希望に沿った利用日数の確保が難しく、利用キャンセルになることもあった。 利用者本人、家族の利用目的に沿ったサービスを提供し、今後も継続した利用をしてもらえるようにする。 下半期から相談員業務を1名から2名で協力して行えるようになったため、無理なく新規利用者の契約ができるようになった。	
	経費削減	電化製品の故障、修理代を減らす		故障、修理が必要な場合は早めに報告する様にした。 故障による家電製品の購入や修理を頼む機会を減らすことはできたと思う。 電化製品の使用方法で注意が必要なものは、ユニット内で情報の共有を連絡ノートや会議で行った。 来年度も定期的にメンテナンスを行い、状態のチェックを行っていく。
		おむつの使用量を減らす		排泄パターンを見直す必要がある方には、職員同士で話し合いをしてパット類の使用の仕方を変更した。来年度も定期的に使用方法を確認しながら、その都度対応を話し合い経費節減に努める。
	消耗品の無駄をなくす		今まで無駄に使用していたと思われる消耗品の使用方法を見直し、別のもので代替りになるものがあれば変更した。 変更後に定期的な見直しが出来ていないことがあった。	
サービス力の強化	介護サービスの質の向上	毎月利用のある利用者(約40名程度)の介護方法を見直し、統一する	ケアプランの更新は今年度中に出来なかったため、来年度に全ユニット職員で取り組む。 介護方法の見直しについては、会議等を活用して話し合い統一していく。	
		ケアの三原則の理解と実践	部下との面接時に確認を行い、実践できているか話し合った。 理解はしていても実践できていなければ、どのような取り組みをしていくかユニットで話し合うことができた。	
		便失禁が減り、トイレでの排便が増える	便失禁が多かったロング利用者1名の排泄パターンを見直し、便失禁を減らすことができた。 自宅ではトイレに座って排便していない利用者を日中にトイレ誘導をすることで、トイレでの排便が増え、便失禁の回数を減らすことができた。	

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
サービス力の強化	利用者が主体的に暮らせる機会を提供	毎月1回以上の実施	利用者個々には外出などを行っているが、実施出来ている人と出来ていない人と偏りがあった。希望がある人には引き続き行おうが、それ以外のへの対応をどうするか来年度も検討していく。それぞれの利用者にとっての楽しみが提供できるように、利用中の様子や会話から情報を得るようにし、職員から積極的に提案・実施を行っていく。
	介護事故削減	職員全員が常に服薬介助の声出し確認ができる	服薬時の声だし確認ができず、服薬ミスを引き起こした。食前薬や食間薬・血糖値測定が必要な人がいる場合に確認しやすいようにキッチンにホワイトボードを置いていたが、記入漏れすることもあった。大きな事故に繋がってはいなかったが、服薬ミスが起こった後に同様のことが起きないように、ユニット内で話し合う場を設けた。利用者が日々変わり、新規利用者の対応も多くあるため、服薬による事故が起きないように声出し確認を来年度も続けていく。
		勉強会の振り返りと技術の定着	特養部門と同じ。
		全員が事故、ヒヤリハットの区別をして記録できる	事故、ヒヤリハットの区別が出来にくいものは他部署と相談することもあった。記録用紙の変更もあったが、現在は全員が内容を理解して記録できている。
		感染症予防	感染対策委員の指導のもとに感染を防ぐことができた。9月の感染症予防勉強会で嘔吐物の処理、ガウンテクニックを学んだ。実践できるように、勉強会で得た成果を確認する予定だったができなかった。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	休憩時間の取得、時間外労働の削減を行い、勤務状況を改善する	休憩時間の取得はできているが、1時間の休憩を確保するには難しい。勤務時間内に業務を終えることができないこともあるため、業務の見直し・簡素化を来年度も行っていく。
人材・組織力の強化	職員の資質向上	申し送り能力の向上	ユニット内での統一はできていない。下半期に申し送りの中で必要な情報を伝えるために、どのように取り組んでいくかを話し合ったが、全員の能力向上までには至らなかった。
		介護施設におけるマナーを知って実践する	法人のマナーマニュアルに沿って実践した。
		知識、技術の向上	特養部門と同じ。
		基本の「き」に沿った介護の実践	5月から、食事・入浴・排泄の勉強会の振り返りを行い、ユニット内でのケアの見直しを行った。見直した内容の中で、すぐに実践できるものは業務に取り入れた。
	職員の定着	離職率の低下	職員1名の退職があった。今年度の中途採用職員が半年で退職したため、来年度は1人1人の心身の変化に気づくことができるように努めた。また、気づいた後の対応をしっかりと行い離職に繋がらないようにする。

平成 26 年度 事業 報告 書

報告日	平成27年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 デイサービス
責任者	西海 和彦

収入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	70.0%	49,254千円
	実績	58.3%	39,856千円
	差異	11.7%	-9,398千円
	達成率	83.3%	80.9%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	利用者数の増大	稼働率 70%	今年度は、通常規模の30人定員で1日当たり平均21名と目標値を上げ取り組んでまいりました。居室を訪問する上で、プライムDSのウリをすることによって新規利用者獲得を試みました。しかし、ソフト、ハード面で他のDSにないものを模索してきましたが、力及ばず従来のサービスを継続することに終始するにすぎませんでした。しかし、毎月、利用者ニーズを取り入れた多彩な行事（買い物、外食、ボランティアによるレク等）で充実していたことはPRできたと思います。また、利用中の様子や月間の空き状況を等をケアマネに伝えるなどして新規利用者獲得に努めました。しかし、新規利用者9名、休止者1名、利用中止者10名（内死亡4名）と不本意な結果に終わりました。また、利用中止者の中で、利用回数が多い利用者が低稼働率の一因となりました。
		追加利用の促進	利用者数の少ない曜日に人気の高い行事（季節行事、会食等）を実施し、追加利用を呼び掛けるなどして稼働率アップに繋がるように意識的に取り組みました。結果、大きな成果に繋がりませんでした。声掛けして参加した利用者には好評でした。
		営業活動	営業ツールの改良は出来なかったが、ケアマネとの情報交換の中で、各利用者の利用中の様子を写真に撮って報告するなど報告するようにした。
		ホームページの活用	前年度からのPR活動の一環として、随時ブログの更新をしました。季節行事、ボランティアによる音楽行事など特徴的な行事を中心に更新しました。結果、閲覧者からの反応もあり効果的であったため、引き続き工夫を凝らして次年度以降もタイムリーにアップする予定です。
	加算体制の強化	個別機能訓練加算	要介護者対象で新規利用者及び既存の利用者に対して、個別機能訓練計画書の内容を説明して、個別機能訓練を実施して加算取得に努めました。
サービス力の強化	年間行事の充実	レクリエーションの企画	毎月、レクリエーション会議を開催し、翌月に行う行事を企画しました。利用者ニーズに沿った行事（買い物、外食、お花見等の外出企画、ボランティアによる音楽等）を中心に企画し、その上職員が考案したゲームも取り入れました。利用者ニーズを調査したところ、大勢の人と楽しみたい行事として買い物、外食、お花見等が挙げられました。
		定例行事	毎月の恒例行事として、ボランティアによる川柳教室、書道、音楽療法（声楽、ハーモニカ演奏）、また、好評のジャズ演奏など次第に充実したレクとなってきました。今後新しい企画も取り入れ定例化する予定です。
		秋の遠足旅行企画	創立10周年特別企画行事として「神戸どうぶつ王国」への遠足を実施しました。介護保険外の企画としたので、それ相当の参加費が自己負担となるので、参加者数の不安がありました。久々の遠足の外出だったこともあり大変好評でした。

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
サービス力の強化	サービスの改善	新サービスの導入	新しいサービスとして、アロマ、柔整師、理学療法士等の導入を検討したが、施設、利用者双方の費用負担や、受け入れる施設側の体制等、解決すべく多くの課題が存在することが明らかになったので、今後中長期的な研究課題とした。
		アンケートの実施	利用者・家族からの意見・苦情を受け入れるべく、匿名アンケートを実施したところ、概ね現在のサービス内容については満足しているとの回答を得たが、現在利用している人からの声なので当然の結果と判断するのが妥当と考えられます。ただし、小さい要望や苦情はは大切に、早急に手当てしないとプライム離れに繋がる恐れがあると考えられます。
	家族への伝達	プライムカレンダー	利用者・家族への行事予定を毎月のレク会議で企画した行事を「プライムカレンダー」として配布してきました。利用する予定の日の行事が一目でわかるので楽しみにしている利用者・家族が多数います。
		写真	家族がデイ利用中の様子が分かりやすい方法として写真を活用しています。一部有料とさせてもらっていますが好評を得ています。
	通所介護計画書の作成	計画的な評価・見直し	各サービスプラン作成担当者が更新月を管理し、評価・見直しを行いました。また、個別機能訓練計画書も3ヶ月更新を管理し、利用者の状態を見極め目標の見直しを行いました。
業務の改善	労働環境の改善	超過勤務時間の削減	各職員が業務時間内に処理しなければならない業務（レクの用意、行事企画書、各種報告書、通所介護計画書、個別機能訓練計画書、毎日のケース記録等）は日常の利用者サービスに差支えない時間帯に処理することになり、定時に終わられるようになりました。デイ会議、レク会議等各種会議の議題は事前準備をすることによって効率化を図るようにしました。
	環境の美化	整理整頓	業務終了時には備品の整理整頓並びに事務所の整理の点検を実施し、利用者が気持ちよく過ごしてもらえるようなダイルームを保持するよう意識的に心掛けてきました。
	環境の美化	随時	ダイルーム内を、利用者が気持ち良く過ごすため備品の整理整頓、トイレチェック等、各職員が意識を持って美化していくように心掛けてきましたが、今後も継続して美化に努めていきたいと思っております。
人材・組織力の強化	専門性の向上	施設内外の研修	施設外研修では、主に認知症予防関係を学びました。研修報告はデイ会議の場で発表するようにしました。また、内部研修については各職員がテーマを決めて実施し、全員で知識・技術を共有し、必要に応じて業務に活用しました。

プライム江井ヶ島データ

平成26年度プライム江井ヶ島 特養要介護度別分布表 (平成27年3月31日)

要介護度	男	女	計	構成比率
要介護1	0	1	1	%
要介護2	0	5	5	%
要介護3	5	10	15	%
要介護4	5	22	27	%
要介護5	2	20	22	%
計	12	58	70	100%
平均要介護度	3.75	3.95	3.91	

平成26年度プライム江井ヶ島 特養年齢分布表 (平成27年3月31日)

年齢区分	男	女	計	構成比率
60歳未満	0	0	0	0%
60歳～64歳	0	1	1	1.40%
65歳～69歳	1	1	2	2.90%
70歳～74歳	1	1	2	2.90%
75歳～79歳	4	4	8	11.40%
80歳～84歳	1	9	10	14.30%
85歳～89歳	3	20	23	32.90%
90歳～94歳	2	15	17	24.30%
95歳～99歳	0	4	4	5.70%
100歳以上	0	3	3	4.30%
計	12	58	70	100%

最高年齢 101歳 最低年齢 64歳
 平均年齢 86.2歳 (男性 81.3歳 女性 86.2歳)

平成26年度プライム江井ヶ島 特養稼働状況表
 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	入所	退所	退所理由	入院	外泊	空床数	実日数	所定日数	稼働率
				日数	日数				
4月	4	2	長期入院 自己都合	7	0	20	2,073	2,100	98.70%
5月	2	3	死亡 自己都合	5	0	23	2,142	2,170	98.70%
6月	1	0		81	0	13	2,006	2,100	95.50%
7月	2	2	死亡 長期入院	31	0	14	2,125	2,170	97.90%
8月	0	1	死亡	47	0	0	2,123	2,170	97.80%
9月	1	0		36	0	9	2,055	2,100	97.90%
10月	1	1	死亡	47	0	6	2,117	2,170	97.60%
11月	0	0		31	0	0	2,069	2,100	98.50%
12月	2	2	死亡	3	0	16	2,151	2,170	99.10%
1月	1	1	死亡	25	0	9	2,136	2,170	98.40%
2月	0	0		24	0	0	1,936	1,960	98.80%
3月	0	0		23	0	0	2,147	2,170	98.90%
計	14	12		360	0	110	25,080	25,550	98.20%

平均入所期間 3年9ヶ月 (男性 3年8ヶ月、 女性 4年0ヶ月)

平成26年度プライム江井ヶ島ショートステイサービス稼働状況表
 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	263	256	255	264	279	247	
1日当り利用者数(人)	8.8	8.3	8.5	8.5	9	8.2	
稼働率(%)	87.7	82.6	85	85.2	90	82.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	249	239	241	225	216	274	3,008
1日当り利用者数(人)	8	8	7.8	7.3	7.7	8.8	8.2
稼働率(%)	80.3	79.7	77.7	72.6	77.1	88.4	82.4

平成26年度プライム江井ヶ島デイサービス稼働状況表
 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	380	415	362	391	328	373	
1日当り利用者数(人)	17.3	18.9	17.2	17	17.3	17	
稼働率(%)	57.6	62.9	57.5	56.7	57.5	56.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	395	337	358	285	366	385	4,375
1日当り利用者数(人)	18	16.9	17	14.3	18.3	17.5	17.2
稼働率(%)	59.8	56.2	56.8	47.5	61	58.3	57.4